

対象学科	全学科		担当教員	森田典幸	
授業科目名	英語総合演習		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	必修得	授業の形態	演習	単位種別	履修
授業概要	CALL教室において各自が端末で英語学習ソフトを利用し、TOEIC演習(前半)・アルクネットアカデミー学習ユニット(後半)を行う。語彙を増やすためのアルク単語道場レベル2の学習も行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(E-1) 建築学プログラム(E-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(f) 建築学プログラム(f)	
到達目標	1. 様々な場面での会話を的確に聞き取り、速やかに応答する能力を養う 2. 英文を素早く的確に読み取るための語彙力、文法力を高める 3. 積極的に英語で意思の疎通を図ろうとする態度を養う				
授業の進め方とアドバイス	前半はTOEIC演習と解答・解説を行う。 後半は学習ユニットと単語道場を個人個人で行う。				
授業内容とスケジュール	第1週 : ガイダンス・語彙力診断テスト 第2週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第4週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第5週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第6週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第7週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第8週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第9週 : 前期中間試験 第10週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第11週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第12週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第13週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第14週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第15週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 前期末試験 第16週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第17週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第18週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第19週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第20週 : TOEIC演習・レベル3リスニング1ユニット・単語道場 第21週 : TOEIC演習・レベル3リーディング2ユニット・単語道場 第22週 : TOEIC演習・レベル3リスニング1ユニット・単語道場 第23週 : 後期中間試験 第24週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第25週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第26週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第27週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第28週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第29週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第30週 : TOEIC演習 学年末試験				
教科書					
参考書					
関連教科基礎知識	1・2・3年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験	70%			
	レポート				
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
			100%		
備考	演習・小テストは指定されたユニットの学習終了を意味し、その他はユニット中のアドバンスポイントを意味する。				

対象学科	全学科		担当教員	渡邊 健(M、D科)、辻本桜介(E、A科)、 藤本晃嗣(C科)	
授業科目名	国語I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	4
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち「コミュニケーション力」の基盤となる力を養う科目である。高等学校用教科書の『国語総合』を用いて現代文、古典(古文、漢文)にわたって幅広い言語教育を行う。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1.日本語の文法を理解できる。 2.他者の意見や考えを、的確に、場合によっては多角的な視点から読み取ったり聴いたりすることが出来る。 3.他者の行う表現を聴いたり読んだりしながら、自らの心情を豊かにしようと努めることが出来る。 4.自分の意見や考えを、的確な日本語表現を用いて話したり、書いたりできる。				
授業の進め方とアドバイス	・現代文、古典を交互に取り上げ、基礎力の充実を図りつつ、幅広い言語能力が身につくように授業を進めていく。 ・質問は休憩時間、放課後に随時受け付けるが、オフィスアワー(週3回)の時間を活用して欲しい。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 授業ガイダンス、現代文 随想「尋ねあい——自由な主体への成長——」 第3週: 現代文 随想「尋ねあい——自由な主体への成長——」、評論「水の東西」 第4週: 現代文 評論「水の東西」 第5週: 古文 説話「児のそら寝」 第6週: 古文 説話「児のそら寝」「絵仏師良秀」 第7週: 古文 説話「絵仏師良秀」 第8週: 前期中間試験 第9週: 漢文 漢文入門 第10週: 漢文 漢文入門 第11週: 漢文 故事成語 第12週: 現代文 小説「羅生門」 第13週: 現代文 小説「羅生門」 第14週: 現代文 小説「羅生門」 第15週: 現代文 小説「羅生門」、読書感想文指導 前期期末試験 第16週: 現代文 評論「まずは形から」 第17週: 現代文 評論「まずは形から」 第18週: 古文 徒然草 第19週: 古文 徒然草 第20週: 古文 徒然草 第21週: 現代文 詩 第22週: 現代文 詩 第23週: 後期中間試験 第24週: 現代文 小説「セメント樽の中の手紙」 第25週: 現代文 小説「セメント樽の中の手紙」 第26週: 漢文 古代の史話 第27週: 漢文 古代の史話 第28週: 漢文 古代の史話 第29週: 現代文 表現活動(創作) 第30週: 現代文 表現活動(創作) 学年末試験				
教科書	『精選 国語総合 新訂版』(大修館)、『新版チャレンジ常用漢字』(第一学習社)				
参考書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典				
関連教科	社会、外国語をはじめとする全ての教科				
基礎知識	義務教育までの全ての教科				
成績の評価方法	総合評価割合			前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、学年末試験を中心に、提出課題、小テスト、出席状況などを加味して100点満点の点数評価をする。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		10%		
	その他		20%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	渡邊 健(D科)、辻本桜介(E科)、藤本晃嗣(M、C、A科)	
授業科目名	国語II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち「コミュニケーション力」の基盤となる力を養う科目である。高等学校用教科書の『国語総合』を用いて現代文、古典(古文、漢文)にわたって幅広い言語教育を行う。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1.日本語の文法を踏まえながら、さらに言語文化に対する関心を深めたり、言語感覚を磨くよう努めたりすることができる。 2.他者の主張についての確にとらえ、批判的な視点をもって思考することができる。 3.自分の意見や考えを、相手に応じ、的確かつ効果的な日本語表現を用いて話したり、書いたりできる。				
授業の進め方とアドバイス	1.現代文、古典を交互に取り上げ、基礎力の充実を図りつつ、幅広い言語能力が身につくように授業を進めていく。 2.質問は休憩時間、放課後に随時受け付けるが、オフィスアワー(週3回)の時間を活用して欲しい。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス、現代文 評論「ネットとリアルのあいだ」 第2週: 現代文 評論「ネットとリアルのあいだ」 第3週: 古文 竹取物語 第4週: 古文 竹取物語 第5週: 古文 竹取物語 第6週: 現代文 表現 発表する 第7週: 現代文 表現 発表する 第8週: 前期中間試験 第9週: 現代文 評論「働くことの意味」 第10週: 現代文 評論「働くことの意味」 第11週: 漢文 十八史略 第12週: 漢文 十八史略 第13週: 漢文 十八史略 第14週: 現代文 表現 発表する 第15週: 現代文 表現 発表する 前期期末試験 第16週: 現代文 小説「富嶽百景」 第17週: 現代文 小説「富嶽百景」 第18週: 古文「奥の細道」 第19週: 古文「奥の細道」 第20週: 古文「奥の細道」 第21週: 現代文 表現 意見文を書く 第22週: 現代文 表現 意見文を書く 第23週: 後期中間試験 第24週: 現代文 短歌・俳句 第25週: 現代文 短歌・俳句 第26週: 漢文 論語 第27週: 漢文 論語 第28週: 漢文 論語 第29週: 現代文 評論「世界中がハンバーガー」 第30週: 現代文 評論「世界中がハンバーガー」 学年末試験				
教科書	『高等学校 国語総合』(明治書院) 『常用漢字の級別学習コンプリート新装版 漢字検定対応5級～2級』(京都書房)				
参考書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典				
関連教科	社会、外国語をはじめとする全ての教科				
基礎知識	義務教育までのすべての教科に加え、国語1で学習した知識				
成績の評価方法	総合評価割合			前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、学年末試験を中心に、提出課題、小テスト、出席状況などを加味して100点満点の点数評価をする。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	3M 3E 3D 3C		担当教員	非常勤講師 足立 靖	
授業科目名	国語Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち、社会とかかわるための「コミュニケーション力」を養う科目である。高等学校用教科書の『古典』を用いて、言葉が時代と共にどう変化したのかを知り、よりの確かな表現法を身に付けられるように、豊かな国語教育を行う。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた表現に接し、自分の表現に役立てることができる。 ・さまざまな文章を読んで、価値観の多様性が理解できる。 ・国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けることができる。 ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・有名な文学作品を取り上げ、読解作業を通して基礎力の充実を図り、幅広い言語能力が身に付くように授業を進めていく。 ・質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週：ガイダンス、『沙石集』『正直の徳』 第2週：『沙石集』『正直の徳』、『徒然草』『名を聞くより』 第3週：『徒然草』『名を聞くより』、『花は盛りに』 第4週：『徒然草』『花は盛りに』 第5週：古文を読むために「助動詞」(文法的意味を中心に) 第6週：古文を読むために「助詞」 古典常識(陰暦、古方位、古時刻など) 第7週：誤りやすい語・表現(自作プリント No1) 第8週：前期中間試験 第9週：『伊勢物語』『芥川』 第10週：『伊勢物語』『筒井筒』 第11週：誤りやすい語・表現(自作プリント No2) 第12週：『土佐日記』『門出』 第13週：『土佐日記』『門出』『帰京』 第14週：『土佐日記』『帰京』 前期末試験 第15週：誤りやすい漢字の読み・書き(自作プリント No3) 第16週：誤りやすい漢字の読み・書き(自作プリント No4) 第17週：『自分のために詠まれた歌』が、必ずある 第18週：古文を読むために「和歌の修辞技巧」 第19週：『万葉集』和歌 第20週：『万葉集』・『古今和歌集』和歌 第21週：『古今和歌集』・『新古今和歌集』和歌 第22週：『新古今和歌集』和歌 第23週：後期中間試験 第24週：『小倉百人一首』より抜粋 第25週：『小倉百人一首』より抜粋 第26週：『小倉百人一首』より抜粋・かるた解説 第27週：誤りやすい漢字の読み・書き(自作プリント No5) 第28週：誤りやすい漢字の読み・書き(自作プリント No6) 第29週：『奥の細道』『旅立ち』 第30週：『奥の細道』『立石寺』 学年末試験				
教科書	『精選 国語総合 古典編』明治書院				
参考書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典(電子辞書で可)				
関連教科	歴史、地理、現代社会、音楽、英語など多くの教科				
基礎知識	歴史、地理、現代社会、音楽、英語など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験を中心に、演習、ノートチェック等を加味して100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	80%			
	レポート				
	演習・小テスト	20%			
	その他				
備考	100%				

対象学科	3A		担当教員	非常勤講師 中永廣樹	
授業科目名	国語Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育理念に基づく「養成すべき人材像」の中の「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材」を養成するとともに、「学習・教育目標」の中の「社会とかわるためのコミュニケーション力」を身に付けることを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	優れた古典作品(古文・漢文)を鑑賞することで、古典の言語を通して言語感覚を磨き、表現力を身につけるとともに、古人の生き方・感じ方を知り、現代のわれわれの生き方の参考にするなどして、幅広い考え方や教養を身につける。				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・古語辞典、配布する文法・表現等に関する資料を持参すること。 ・授業では教科書以外にも、適宜、プリント教材等を用いる。また、現代の文学作品の朗読を行ったりもする。 ・質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、古典を学ぶ意義、宇治拾遺物語「絵仏師良秀」 第2週: 宇治拾遺物語「絵仏師良秀」 第3週: 十訓抄「大江山」 第4週: 伊勢物語「芥川」 第5週: 伊勢物語「筒井筒1」 第6週: 伊勢物語「筒井筒2」 第7週: プリント教材(言葉の学習1) 第8週: 前期中間試験 第9週: 土佐日記「門出」 第10週: 土佐日記「亡き児をしのぶ」 第11週: 土佐日記「帰京」 第12週: 更級日記「東路の道の果て」 第13週: プリント教材(言葉の学習2) 第14週: 徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」 第15週: 徒然草「花は盛りに」 前期期末試験 第16週: 方丈記「ゆく河の流れ1」 第17週: 方丈記「ゆく河の流れ2」 第18週: 平家物語「木曾の最期1」 第19週: 平家物語「木曾の最期2」 第20週: 平家物語「木曾の最期3」 第21週: プリント教材(言葉の学習3) 第22週: 奥の細道「序」 第23週: 後期中間試験 第24週: 奥の細道「白川の関」 第25週: 奥の細道「平泉」 第26週: 奥の細道「立石寺」 第27週: プリント教材(言葉の学習4) 第28週: 玉勝間「いにしへよりも後世のまされること」 第29週: 風俗文選「落柿舎の記」 第30週: 文学作品の朗読 学年末試験				
教科書	「精選 国語総合 古典編」(筑摩書房)				
参考書	古語辞典				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	国語、日本史など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験と小テストによって、100点満点の点数評価をする。		
	定期試験		90%		
	レポート				
	演習・小テスト		10%		
	その他				
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 布施圭司	
授業科目名	現代社会		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	政治、経済など現代の社会のしくみを理解し、現代の社会が直面している諸問題や諸課題を学習する。社会のあり方や社会における自己のあり方について理解を深める。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	現代社会の政治や経済のしくみについて基礎的な事項を説明できる。 現代日本が直面している政治、経済、国際関係に関する主な問題を理解できる。				
授業の進め方とアドバイス	基礎的事項の修得を重視するので、毎回着実に学んでゆくこと。 授業外では新聞などで世界の出来事に注意を払い、また人文社会関係の教養書を読むことが望ましい。 毎火曜日の16-17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、現代社会の諸課題(1) 生命 第2週: 現代社会の諸課題(2) 環境・情報 第3週: 青年のあり方と現代(1) 青年期のあり方 第4週: 青年のあり方と現代(2) アイデンティティ 第5週: 現代に生きる古典の知恵(1) 知の源流 第6週: 現代に生きる古典の知恵(2) 生き方と宗教 第7週: 近・現代史の思想と社会(1) 人間の尊厳と近代社会 第8週: 前期中間試験 第9週: 近・現代史の思想と社会(2) 近代社会の問題 第10週: 憲法と人権保障(1) 日本国憲法の制定とその原理 第11週: 憲法と人権保障(2) 人権の保障 第12週: 憲法と政治参加(1) 国会 第13週: 憲法と政治参加(2) 内閣・行政機関 第14週: 憲法と政治参加(3) 裁判所 第15週: 憲法と政治参加(4) 地方自治 前期末試験 第16週: 憲法と平和 第17週: 現代の経済社会(1) 資本主義のしくみ 第18週: 現代の経済社会(2) 企業 第19週: 現代の経済社会(3) 金融 第20週: 現代の経済社会(4) 財政 第21週: 現代の経済社会(5) 経済成長と景気変動 第22週: 現代の経済社会(6) 貿易と国際収支 第23週: 後期中間試験 第24週: 現代の経済社会(7) 外国為替 第25週: 経済活動のあり方(1) 雇用・労働問題 第26週: 経済活動のあり方(2) 社会保障 第27週: 経済活動のあり方(3) 消費者問題 第28週: 経済活動のあり方(4) 農業と食料 第29週: 国際社会(1) 主権国家と国際法 第30週: 国際社会(2) 国際連合と国際社会 学年末試験				
教科書	新現代社会(清水書院)、新現代社会 最新版ワークノート(清水書院)				
参考書					
関連教科	歴史I・II、地理、社会科学I・II・III				
基礎知識	中学校で学ぶ社会科の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、その他(課題、聴講状況など)を総合して評価する。		
	定期試験		80%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他		20%		
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 加藤博和	
授業科目名	地理		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	これまで学習してきた歴史、現代社会の授業内容も踏まえ、世界や日本の今を読み解く。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	世界や日本の現状を理解するための知識を身につけること。またその知識を活用して、自分の考えをまとめることができること。				
授業の進め方とアドバイス	参考書に挙げた公式テキスト&問題集をベースにして時事問題について学習する。併せて、新聞を読んでコンクールに応募する。また、高専について考えてみる。 毎週月曜日16~17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: イントロダクション 第2週: 安倍内閣と政治 第3週: 憲法と政治の課題 第4週: 近隣の国々と領土 第5週: 地方自治のあす 第6週: アベノミクス3年目に 第7週: 日本の産業・貿易 第8週: 前期中間試験 第9週: 輸入に頼る資源 第10週: 進む少子高齢化 第11週: 曲がり角の社会保障 第12週: 働く環境を考えよう 第13週: 大震災からの復興 第14週: 差別のない社会へ 第15週: 裁判所の役割と国民 前期末試験 第16週: 情報社会に生きる 第17週: いのちを守る 第18週: 日本の科学技術 第19週: 生活を脅かす自然災害 第20週: 持続可能な社会へ 第21週: 流動化する世界 第22週: 険しい平和への道のり 第23週: 後期中間試験 第24週: 新聞コンクールへの取り組み(1) 第25週: 新聞コンクールへの取り組み(2) 第26週: 新聞コンクールへの取り組み(3) 第27週: 高専について: 現状 第28週: 高専について: 歴史1 第29週: 高専について: 歴史2 第30週: 高専について: 地域との関係 学年末試験				
教科書	『新コンパクト地図帳』(二宮書店)				
参考書	『2015年度版ニュース検定公式テキスト&問題集3・4級』(毎日新聞社)				
関連教科	歴史、現代社会、国語				
基礎知識	中学校社会科				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験(80%)と課題等(20%)で評価する。		
	定期試験	80%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	20%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 原田桃子	
授業科目名	歴史I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」「倫理力」を養う科目である。 具体的には、世界中における人類の歩みを、人類の登場から現代に至るまで講義する。 世界の成り立ちを様々な側面から取り上げ、時代性や地域性を理解できるようつとめる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	(1)世界における社会と人類の進歩と発展の基本的事項について理解できる (2)世界史に置ける基本的な事象について、歴史的に見ること、考えることができる。				
授業の進め方とアドバイス	個々の事件・事象を表象的に捉えるのではなく、それぞれの歴史的事実・事象の背景や因果関係について理解・考察できるよう留意し、歴史の流れを把握することに主眼を置く。 毎週火曜日の16時～17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス / 人類のはじまり 第2週: 東アジアの文明 第3週: 南アジア、東南アジアの文明 第4週: 西アジア、北アフリカの文明 第5週: ヨーロッパの文明 第6週: 南北アメリカの文明 / ユーラシアの交流圏 第7週: 西アジア・ユーラシア大陸の繁栄 第8週: 前期中間試験 第9週: 東アジアの繁栄 第10週: 大航海時代と新たな国家の形成 第11週: ヨーロッパとアメリカの諸革命(1) 第12週: " (2) 第13週: 自由主義・ナショナリズムの進展(1) 第14週: " (2) 第15週: 科学技術の発展とヨーロッパ文化 前期期末試験 第16週: アジア諸国の動揺 第17週: 東アジアの大変動 第18週: 大衆社会の形成と帝国主義 第19週: 第一次世界大戦(1) 第20週: 第一次世界大戦(2) 第21週: 第一次世界大戦後の列強 第22週: 「民族自決」を求めて 第23週: 後期中間試験 第24週: 世界恐慌とファシズムの台頭 第25週: 第二次世界大戦(1) 第26週: 第二次世界大戦(2) 第27週: 冷戦(1) 第28週: 冷戦(2) 第29週: 冷戦終結への道のり 第30週: 地球社会への歩み 学年末試験				
教科書	岡崎勝世ほか『明解 世界史A』帝国書院				
参考書					
関連教科					
基礎知識	中学までの「歴史」				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート課題のほか、授業中の発表を加えて総合的に評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト	0%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 中原道宣	
授業科目名	歴史II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」、「倫理力」を養う科目である。具体的には、1年次の歴史学習を基礎にして、更に明治以降の日本の歴史を学ぶことにより、日本が過去に歩んできた跡を知り、現代日本の形成の過程と、日本の文化、社会の特質を理解する。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	(1)具体的な歴史的事実を正しく認識することができる。 (2)個別の事実を羅列的に知るのではなく、同時代の政治・経済・文化など各種の分野の事実との関連に注意し、前後の時代との因果関係についても考察し理解できる。				
授業の進め方とアドバイス	講義形式。なるべく多くの“史料”を活用しながら科学的な歴史認識の涵養を目指したい。今後よりよい社会や文化を創るにはどうすればよいかという問題を解く手がかりをつかむつもりで授業に臨んでほしい。 なお、質問がある場合は授業終了後の休憩時間に申し出ること。				
授業内容とスケジュール	第1週：・授業のガイダンス・欧米の東アジア進出 第2週：・日本の開国・貿易の開始 第3週：・安政の政局・公武合体 第4週：・攘夷運動の全盛と挫折・薩長同盟と幕府 第5週：・討幕運動と大政奉還・王政復古 第6週：・戊辰戦争・新政府の成立・集権化の達成 第7週：・徴兵制と警察・四民平等 第8週：前期中間試験 第9週：・地租改正・殖産興業 第10週：・岩倉使節団と留守政府・征韓論政変・台湾出兵と江華島事件 第11週：・国境の確定・民権運動の発端・農民一揆と土族反乱 第12週：・西欧文明の受容・神道、仏教、キリスト教 第13週：・教育の普及・文明開化の世情・民権運動の高揚 第14週：・明治十四年の政変・松方財政 第15週：・民権運動の衰退と激化・大同団結運動・国家機構の整備 前期末試験 第16週：・大日本帝国憲法・法典編纂と家制度 第17週：・地方制度と北海道、沖縄・条約改正交渉の開始・井上の改正交渉 第18週：・大隈の改正交渉・条約改正の実現・第1回総選挙・初期議会 第19週：・朝鮮問題・日清戦争 第20週：・下関条約と三国干渉・藩閥官僚と政党 第21週：・立憲政友会の成立・極東情勢と日英同盟 第22週：・極東情勢と日英同盟・日露戦争 第23週：後期中間試験 第24週：・大陸への膨張・日露戦争後の国際関係 第25週：・柱園時代・産業革命の展開・繊維工業の発展・重工業の確立 第26週：・輸送産業の発達・財閥と貿易・農業と寄生地主 第27週：・社会問題の発生・社会運動の開始・社会主義運動の展開 第28週：・憲政擁護運動・日本の大戦参加と二十一か条要求 第29週：・日本の大戦参加と二十一か条要求・ロシア革命・大戦景気 第30週：・都市化と都市文化 学年末試験				
教科書	君島和彦、加藤公明ほか著「日本史B」実教出版				
参考書	一般歴史関係図書				
関連教科	国語(文学史等)、現代社会				
基礎知識	中学までの「歴史」、古文読解力				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験・中間試験を総合して評価する。		
	定期試験	100%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 蔵岡誉司・倉田久靖・古清水大直 非常勤講師 浦木 勇	
授業科目名	数学I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	整式の計算、数、集合と命題、等式と不等式、点と直線、円と2次曲線、不等式と領域、図形の性質、場合の数と二項定理について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	数式の基礎的な計算および応用ができる。 方程式・不等式の解法を理解できる。 直線や2次曲線の性質を理解でき、与えられた条件を満たす直線や2次曲線の方程式を立てることができる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問してもよい。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 第1章 §1 因数分解 第3週 整式の除法 第4週 剰余の定理と因数定理 第5週 第1章 §2 分数式の計算 第6週 実数、平方根 第7週 複素数 第8週 ※前期中間試験 第9週 第2章 §1 2次方程式、解と係数の関係 第10週 いろいろな方程式 第11週 恒等式 第12週 等式の証明 第13週 第2章 §2 不等式の性質、1次不等式の解法 第14週 連立不等式 第15週 2次不等式、高次不等式 ※前期末試験 第16週 不等式の証明 第17週 第6章 §1 2点間の距離と内分点 第18週 直線の方程式、2直線の関係 第19週 第6章 §2 円の方程式 第20週 楕円 第21週 双曲線、放物線 第22週 2次曲線の接線 第23週 ※後期中間試験 第24週 不等式と領域 第25週 第7章 §1 場合の数 第26週 順列 第27週 組合せ 第28週 いろいろな順列 第29週 二項定理 第30週 第2章 §2 集合、命題 ※学年末試験				
教科書	斎藤 斉ほか「新基礎数学」大日本図書、「新基礎数学 問題集」大日本図書				
参考書	三ツ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 基礎数学」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	中学までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合		成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、実力試験(10%)により評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート				
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 蔵岡誉司・大庭経示・古清水大直	
授業科目名	数学II		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	2次関数、2次方程式、2次関数のグラフと不等式、三角関数の定義、三角関数の性質、加法定理とその応用、三角形の性質、関数とグラフ、指数関数、対数関数について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	2次関数・べき関数・分数関数・無理関数・三角関数・指数関数の各関数について、 ・その性質を理解し、計算ができる ・グラフがかけられる ・これらの関数を含む方程式・不等式が解ける				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の問を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 第3章 §1 関数とグラフ 第3週 2次関数のグラフ 第4週 2次関数の最大・最小 第5週 2次関数と2次方程式 第6週 2次関数と2次不等式 第7週 問題演習 第8週 ※前期中間試験 第9週 第3章 §2 べき関数・分数関数 第10週 無理関数 第11週 逆関数 第12週 第5章 §1 鋭角の三角比 第13週 鈍角の三角比 第14週 三角形への応用 第15週 問題演習 第16週 ※前期末試験 第17週 第5章 §2 一般角 一般角の三角関数 第18週 弧度法 第19週 三角関数の性質 第20週 三角関数のグラフ 第21週 第5章 §3 加法定理 第22週 加法定理の応用 第23週 ※後期中間試験 第24週 第4章 §1 累乗根 第25週 指数の拡張 第26週 指数関数 第27週 第4章 §2 対数 第28週 対数関数 第29週 常用対数 第30週 問題演習 ※学年末試験				
教科書	高遠節夫ほか「新基礎数学」大日本図書、高遠節夫「新基礎数学問題集」大日本図書				
参考書	三ツ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 基礎数学」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	中学までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、実力試験(10%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・蔵岡誉司・大庭 経示・堀畑佳宏 非常勤講師 下雅 意浩二	
授業科目名	代数・幾何		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	平面のベクトル、空間のベクトル、行列および行列式について学習する。				
関連する本校の 学習教育目標	A		関連するJABEE 学習教育目標		
到達目標	平面ベクトルについて理解し、計算ができる 空間ベクトルについて理解し、計算ができる 行列について理解し、計算ができる 行列式について理解し、計算ができる				
授業の進め方と アドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の問を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容と スケジュール	第1週 ガイダンス 第2週 1章 § 1 ベクトル、ベクトルの演算 第3週 ベクトルの成分、ベクトルの内積 第4週 ベクトルの平行と垂直 第5週 ベクトルの図形への応用 第6週 直線のベクトル方程式 第7週 平面のベクトルの線形独立・線形従属 第8週 問題演習 第9週 ※前期中間試験 第10週 1章 § 2 空間座標、ベクトルの成分 第11週 ベクトルの内積 第12週 直線の方程式 第13週 平面の方程式 第14週 球の方程式 第15週 空間のベクトルの線形独立・線形従属 第16週 問題演習 第17週 ※前期末試験 第18週 2章 § 1 行列の定義、行列の和・差・数との積 第19週 行列の積、転置行列 第20週 逆行列 第21週 2章 § 2 消去法 第22週 逆行列と連立一次方程式 第23週 行列の階数 第24週 問題演習 第25週 ※後期中間試験 第26週 3章 § 1 行列式の定義(1)(2) 第27週 行列式の性質 第28週 行列の積の行列式 第29週 3章 § 2 行列式の展開 第30週 行列式と逆行列 連立1次方程式と行列式 行列式の図形的意味 ※学年末試験				
教科書	「新線形代数」大日本図書、「新線形代数 問題集」大日本図書				
参考書	堂平良一「大学・高専生のための 解法演習 線形代数」森北出版				
関連教科	解析I、解析II、および専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	数学I、数学II				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、実力テスト(10%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
備考					100%

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・堀畑佳宏・古清水大直	
授業科目名	微分・積分		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	数列、関数の極限と導関数、導関数の応用、定積分と不定積分、積分の計算について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	等差数列、等比数列、漸化式と数学的帰納法について理解し応用できる 初等関数およびそれらの合成関数の導関数について理解し、応用できる 各種関数の不定積分について理解し、応用できる 各種関数の定積分について理解し、応用できる				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の問を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 ガイダンス、数列 第2週 等差数列 第3週 等比数列 第4週 いろいろな数列の和 第5週 漸化式と数学的帰納法 第6週 関数の極限 第7週 微分係数、導関数 第8週 ※前期中間試験 第9週 導関数の性質 第10週 三角関数の導関数 第11週 指数関数の導関数 第12週 合成関数の導関数 第13週 逆関数の導関数 第14週 対数関数の導関数 第15週 逆三角関数とその導関数 ※前期末試験 第16週 接線と法線 第17週 関数の増減 第18週 関数の極大・極小 第19週 関数の最大・最小 第20週 不定形の極限 第21週 高次導関数、曲線の凹凸 第22週 媒介変数表示と微分法 第23週 ※後期中間試験 第24週 不定積分 第25週 定積分の定義 第26週 定積分の計算、不定積分の公式 第27週 置換積分法 第28週 部分積分法 第29週 置換積分法・部分積分法の応用 第30週 いろいろな関数の積分 ※学年末試験				
教科書	「新基礎数学」 「新微分積分I」大日本図書、「新基礎数学 問題集」「新微分積分I 問題集」大日本図書				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 微分積分I」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	数学I、数学II				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、実力試験(10%)により評価する。	
	定期試験	70%			
	レポート				
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
	100%				
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・蔵岡誉司・大庭経示・堀畑佳宏	
授業科目名	解析I		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	1変数の微分・積分の応用、偏微分、重積分について学習する。学習到達度試験対策を兼ねて、適宜1・2年生の内容の復習にも行う。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1変数関数の微分・積分の応用ができること。偏微分、重積分の計算とその応用ができること。1・2年の学習が定着していること。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 (I) 4章1節 面積(ガイダンスを含む) 第2週 (I) 曲線の長さ・体積 第3週 (I) 4章2節 媒介変数表示による図形の面積 第4週 (I) 媒介変数表示による曲線の長さ 第5週 (I) 極座標による図形 第6週 (I) 極座標による図形の面積と長さ 第7週 (I) 広義積分 第8週 (I) 変化率と積分 第9週 ※前期中間試験 第10週 (II) 1章1節 多項式による近似(1) 第11週 (II) 多項式による近似(2) 第12週 (II) 数列の極限 第13週 (II) 級数 第14週 (II) ベキ級数とマクローリン展開 第15週 (II) オイラーの公式 ※前期期末試験 第16週 (II) 2章1節 2変数関数 第17週 (II) 偏導関数・全微分 第18週 (II) 合成関数の微分法 第19週 (II) 2章2節 高次偏導関数、極大・極小 第20週 (II) 陰関数の微分法・条件付き極値問題 第21週 (復) 1年生の復習 第22週 (復) 2年生の復習 第23週 ※後期中間試験 第24週 (II) 3章1節 2重積分の定義 第25週 (II) 2重積分の計算 第26週 (II) 積分順序変更、立体の体積 第27週 (II) 3章2節 極座標による2重積分 第28週 (II) 変数変換 第29週 (II) 広義積分 第30週 (II) 2重積分のいろいろな応用 ※学年末試験				
教科書	新微分積分I、新微分積分II(大日本図書)、新微分積分I演習、新微分積分演習II(大日本図書)、1・2年復習問題集(本校作プリント)				
参考書	「大学・高専生のための 解法演習 微分積分I(森北出版)、大学・高専生のための 解法演習 微分積分II(森北出版)				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	数学I、数学II、微分・積分、代数・幾何				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、到達度試験(10%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・大庭経示・古清水大直 非常勤講師 石川秀明, 小浪吉史	
授業科目名	解析II		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	線形変換、固有値とその応用、微分方程式について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	固有値・固有ベクトルについて理解し、計算ができる。 微分方程式の解法を理解し、解を求めることができる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週: (線)第4章 § 1 線形変換の定義 (ガイダンスを含む) 第2週: 線形変換の基本性質 第3週: 合成変換と逆変換 第4週: 回転を表す線形変換 第5週: 直交行列と直交変換 第6週: 第4章 § 2 固有値と固有ベクトル 第7週: 固有値と固有ベクトルの計算(2次) 第8週: ※前期中間試験 第9週: 固有値と固有ベクトルの計算(3次) 第10週: 行列の対角化 第11週: 対角化可能な条件 第12週: 対称行列の直交行列による対角化 第13週: 対称行列の直交行列による対角化(重解) 第14週: 対角化の応用 第15週: 問題演習 ※前期末試験 第16週: (復)1・2年生の復習 第17週: (復)1・2年生の復習 第18週: (微)第4章 § 1 微分方程式の意味 第19週: 微分方程式の解 第20週: 変数分離形 第21週: 同次形 第22週: 1階線形微分方程式 第23週: ※後期中間試験 第24週: § 2 2階微分方程式の解 第25週: 線形微分方程式 第26週: 定数係数斉次線形微分方程式 第27週: 定数係数非斉次線形微分方程式 第28週: いろいろな微分方程式 第29週: 線形でない2階微分方程式 第30週: 問題演習 ※学年末試験				
教科書	高遠節夫ほか「新線形代数」「新微分積分II」大日本図書、高遠節夫ほか「新線形代数 問題集」「新微分積分II 問題集」大日本図書、米子高専編「1・2年復習問題集」				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 線形代数」森北出版、三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 微分積分II」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	代数・幾何、微分・積分				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、到達度試験(10%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	M:矢壁, E:井口(非常勤講師), D:河野・井上, C:井口, A:山田・西川	
授業科目名	情報リテラシ		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	理科系の学生にとってコンピュータは学習や研究を行う上で欠かせない道具である。また、情報化社会に生きる者にとって情報を積極的に活用することが求められる。この授業では、コンピュータの基本的な操作方法やネットワークを通して情報を扱うための基礎知識の習得を目指す。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータの仕組みや基本的な用語を理解することができる。 2. オペレーティングシステムの基本操作ができるようになる。 3. 基本的なアプリケーションソフトの操作ができるようになる。 4. ネットワークや情報管理の基礎知識を理解することができる。 				
授業の進め方とアドバイス	コンピュータの基本操作、オペレーティングシステムやアプリケーションソフトの基本操作は講義のほか演習と実習を通して行う。担当教員の注意や指示に従って演習や実習、レポート作成を積極的に行ってほしい。なお、担当教員が適宜配布する授業計画等のプリントを参照のうえ保管しておくこと。				
授業内容とスケジュール	<p>前期の内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、センター端末室の利用方法などの注意事項 2. コンピュータの仕組みとセンター端末の操作方法 3. コンピュータの使い方 ----- Windowsの概要と基本操作 4. ワードプロソフトを使った文書作成方法 <p>前期期末試験</p> <p>後期の内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. インターネットの基礎 6. 電子情報の管理とネチケット 7. インターネットの使い方 ----- WWWと電子メール 8. 情報の活用と発信 9. 表計算ソフトの使い方 10. 表計算ソフトを使ったデータの整理 <p>後期末試験</p> <p>時間割編成上、M科は後期、E科、C科、A科は前期に集中して実施している。 より具体的な授業計画については各担当教員が配布するプリントを参照すること。</p>				
教科書	岡田正、高橋参吉、藤原正敏 編著:ネットワーク社会における情報の活用と技術 改訂版:実教出版 若山芳三郎著:Office 2010/Windows 7版 学生のための情報リテラシー:東京電機大学出版局				
参考書	副読本、演習書については各担当教員が配布する授業計画表を参照のこと				
関連教科基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		その他の項目にはレポート・演習・小テスト・態度等が含まれる。課題に主体的に取り組む姿勢は技術者として重要な要素であることを鑑み、出席状況や態度等も成績の評価の重要な要素とする。		
	定期試験	50%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	50%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 小林玉青, 非常勤講師 亀山道宏	
授業科目名	物理I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	登場する物理量や物理の考え方に慣れる。物理法則と現象を理解し、数式で表現する。また、それらの数式を用いて基本的な問題を確実に解くことが出来るようにする。物理は工学を習得する上では必須であり、専門科目の基礎となる。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>(1) 前期中間試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効数字の桁数を数えることができる。 位置・変位、速度・加速度の意味を理解し、計算できる。 $x-t$・$v-t$・$a-t$グラフから物理量を読み取り、別のグラフを作成出来る。 等加速度直線運動の公式を用いて基本的な問題を解くことができる。 落体の運動についての基本的な問題を解くことができる。 合成速度と相対速度の意味を知り、計算できる。 <p>(2) 前期期末試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な力の名称を知り、正しく図示出来る。 慣性の法則や作用・反作用の法則を説明できる。 力のつり合い、作用・反作用の法則、運動方程式を用いて、力の大きさや加速度を求めることができる。 三角比を用いて、ベクトルの合成・分解が出来る。 落体の運動、力のつりあい、運動方程式、合成・相対速度についてベクトルを用いた計算が必要な平面運動の場合にも、標準的な問題を解くことが出来る。 <p>(3) 後期中間試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動量・力積・反発係数を計算できる。 運動量と力積の関係を用いて、基本的な問題を解くことができる。 運動量保存則や反発係数を用いて、衝突に関する標準的な問題を解くことできる。 仕事と仕事率を計算できる。 <p>(4) 学年末試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事とエネルギーの関係を理解し、それを用いて基本的な問題を解くことができる。 エネルギーの意味を知り、運動エネルギーや重力および弾性力による位置エネルギーを計算できる。 力学的エネルギー保存則の観点から標準的な問題を解くことができる。 力のモーメントの意味を知り、計算できる。 剛体のつり合いに関する標準的な問題を解くことができる。 単純な剛体の重心を求めることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 主にプリントに書き込みながら授業を進める。 演習を多く行うが、必ず学生本人が手を動かすこと。 物理現象に対する理解を深めるため、実験を実施し、実験レポートを課す。 授業の復習効果を高めるため、授業ごとに宿題を出す。提出を強く推奨する。(小林) 理解度を確認するため、小テストを実施する。 必要事項を確実に定着させるため、定期試験対策レポートを課す。 定期試験は、授業及び定期試験対策レポートで扱った問題と同程度の内容から多く出題する。 基礎事項の長期定着を図るため、長期休暇には課題を出す。 授業時以外の質問は小林研究室や物理実験室で受け付ける。 特に火曜日・木曜日(15:30~19:00)はオフィスアワーとして、研究室・物理実験室に小林が待機する。 e-mail : kobayasi@yonago-k.ac.jp (小林) 				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 修学ガイダンス 第2週: 授業ガイダンス、桁と有効数字 第3週: 位置・変位、速度・加速度 第4週: $x-t$・$v-t$・$a-t$グラフ 第5週: 実験(長さの測定) 第6週: 等加速度直線運動 第7週: 落体の運動(自由落下、鉛直投げ上げ) 第8週: いろいろな力、作用・反作用の法則 第9週: 前期中間試験 第10週: 力のつり合い 第11週: 運動方程式(1物体の運動) 第12週: 運動方程式(2物体の運動) 第13週: 静止摩擦力、動摩擦力 第14週: 三角比、ベクトルの分解、分解と運動方程式 第15週: 平面上での力のつりあい、斜面上で静止する物体・運動する物体</p> <p>前期末試験</p> <p>第16週: 相対速度・合成速度 第17週: 実験(力と加速度の関係) 第18週: 水平投射、斜方投射 第19週: 運動量と力積 第20週: 運動量保存則 第21週: 反発係数 第22週: 仕事と仕事率 第23週: 後期中間試験 第24週: 仕事とエネルギーの関係、運動エネルギー 第25週: 実験3(運動量保存則) 第26週: 重力・弾性力による位置エネルギー 第27週: 力学的エネルギー保存則 第28週: 力のモーメント 第29週: 剛体のつりあい 第30週: 剛体の重心</p> <p>学年末試験</p>				
教科書	高専テキストシリーズ 物理(上)力学・波動 (森北出版)				
参考書	ニューグローバル 物理基礎+物理(東京書籍)				

関連教科	物理II, 応用物理, 微分・積分, 代数・幾何, 化学I, 化学II, 専門科目	
基礎知識	中学数学, 数学I, 数学II	
成績の評価方法	総合評価割合	
	定期試験	70%
	レポート	20%
	演習・小テスト	10%
	その他	
		100%
備考		

定期試験(4回) 70%, レポート(実験レポート, 定期試験対策レポート, 長期休暇課題) 20%, 小テスト10%で評価する。
(小林)
ただし, レポートと小テストの合計が30%未満の場合は, 30%を上限として, 宿題提出回数に応じた点数を加算する。

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 川邊博、小林玉青	
授業科目名	物理II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	1学年の物理Iにつづき円運動、単振動、万有引力の法則を学び物理の基礎である『力学』が完結する。これをもとに『熱』、『波』、『電気』の分野に進む。身の周りのさまざまな自然現象に見られる共通性からその法則を理解し、自然界の真理の美しさにせまる。技術は自然法則を人類の幸福のために生かすものであるが、物理では現象や法則を数式で扱うこととその意味を理解することに重点をおく。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<p>いろいろな自然現象や技術を物理法則や式に関連づけて理解し、技術における問題解決や応用・発展にこれらを適切に使えるようになることを目指す。以下に各分野における重要なキーワードをあげる。授業における到達目標は、これらや関連する用語の意味を説明でき、基本的な計算問題を解くことができることである。</p> <p>『力学』：等速円運動、単振動、万有引力の法則 『熱』：熱と仕事、熱力学第一法則 『波』：波を表す式、重ねあわせの原理、回折・干渉、反射・屈折 『電気』：キルヒホッフの法則、電場と電位、コンデンサー</p>				
授業の進め方とアドバイス	前後で学ぶことの関連が多く、考え方や計算に慣れることが大切になるため、授業で学んだことはその日のうちに復習するのが効果的である。考えをノートにまとめて計算することは労力を要することではあるが、それに時間をかけただけ確実に授業が聞きやすくなる。毎週月曜日15時30分から16時30分までの間はオフィスパワーとして研究室(または物理実験室)に待機する。				
授業内容とスケジュール	<p>【上】および【下】は用いる教科書を示す</p> <p>第1週：ガイダンス、【上】等速円運動 第2週：【上】慣性力 第3週：【上】単振動 第4週：【上】重力と万有引力 第5週：【下】熱と温度 第6週：【下】理想気体の状態方程式 第7週：【下】気体がする仕事 第8週：前期中間試験 第9週：【下】熱力学の第1法則、気体の熱力学過程 第10週：【下】熱効率、熱力学の第2法則 第11週：【上】波とは、波の基本式、正弦波、横波と縦波 第12週：【上】直線上を伝わる波の重ね合わせ、定常波 第13週：【上】音の発生、音の速さ、音の3要素、発音体の固有振動、共振と共鳴 第14週：【上】うなり、波面とホイヘンスの原理、波の回折、波の反射 第15週：【上】波の屈折、波の全反射、光の屈折、光の全反射 前期期末試験 第16週：【上】ドップラー効果 第17週：【上】平面・空間を伝わる波の干渉、音波の回折と干渉 第18週：【上】光とは、光の回折と干渉、光の分散とスペクトル、光の散乱 第19週：【下】電流、オームの法則 第20週：【下】抵抗の接続 第21週：【下】キルヒホッフの法則 第22週：【下】電池の起電力と内部抵抗 第23週：後期中間試験 第24週：【下】電力とジュール熱 第25週：【下】帯電、クーロンの法則 第26週：【下】電界、電気力線、ガウスの法則 第27週：【下】電位と電位差、等電位面、導体と静電誘導、静電遮蔽 第28週：【下】コンデンサーと電気容量、誘電体と誘電分極 第29週：【下】コンデンサーの接続 第30週：【下】コンデンサーのエネルギー 学年末試験</p>				
教科書	高専テキストシリーズ 物理(上)力学・波動、物理(下)熱・電磁気・原子(森北出版)				
参考書	ニューグローバル 物理基礎+物理(東京書籍)				
関連教科	応用物理I, 応用物理II, 専門科目				
基礎知識	物理I, 数学I, 数学II				
成績の評価方法	総合評価割合		成績は定期試験70%、小テスト20%、レポート10%で評価する。		
	定期試験	70%	(小林)		
	レポート	10%	ただし、レポートと小テストの合計が30%未満の場合は、30%を上限として、宿題提出回数に応じた点数を加算する。		
	演習・小テスト	20%			
	その他	100%			
備考					

対象学科	M, E, D, A		担当教員	M: 浦木(非常勤), E: 谷藤(前期)・田中晋(後期), D: 浦木(非常勤), A: 櫻間(前期), 藤井雄三(後期)	
授業科目名	化学I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	我々の身の周りには様々な物質があり、人類はそれら物質の性質を上手く活用しながら生活してきた。さらに各工学分野においては、材料の性質を正確に把握して、それぞれの場面に適した物質を利用する必要があるため、物質に関する知識は必須のものである。 本講では、中学校の理科で学習した事柄の上に積み上げる方法で、技術者としてはもちろん、一般教養としても欠かせない、基礎的な化学知識を学び、基礎力を養う。また、これら基礎的な内容を発展させ、応用できるよう、演習および実験に取り組む。また、身近な化学物質の性質を知り、これらが自然環境へ及ぼす影響を考えることで、環境化学分野での論理力を養う。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	基本的な化学の概念や原理・法則を理解し、論理的に探求する能力と態度を身につける。身近な日常生活や各専門分野での些細な化学現象も、興味をもって観察し、論理的に理解できることを目標とする。具体的には (1) 物質の性質や変化を原子・分子の微視的な視点から理解できる (2) 物質質量などの概念を理解し、論理的に量的関係を計算できる (3) 三態相互の変化を粒子的観点で理解できる (4) 中和反応・酸化還元反応などの化学反応に関する基本的事項を理解できる				
授業の進め方とアドバイス	座学が中心となるが、理解を深めるため、授業時間の2割程度を演習にあてる。さらに4回の学生実験により実際の化学現象を観察し、実験結果をプリントに記入し、レポートとして提出する。定期試験以外に4回小テストを行い、理解力を養う。オフィスアワーは別途掲示等で知らせる。オフィスアワー以外の放課後、休憩時間にも可能であれば質問を受け付ける。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 【基礎】純物質と混合物、化合物と元素、物質の三態 第3週: 【基礎】物質の三態、原子の構造／学生実験「混合物の分離」 第4週: 【基礎】元素の周期律と元素の性質 第5週: 【基礎】イオンとイオン結合、共有結合 第6週: 【基礎】配位結合、分子間力 第7週: 【基礎】金属結合と金属結晶の構造／学生実験「結晶の電気伝導」 第8週: 【基礎】化学結合と物質の分類・用途 第9週: 前期中間試験 第10週: 【基礎】原子量・分子量・式量 第11週: 【基礎】物質質量 第12週: 【基礎】溶液の濃度、化学反応式と量的関係 第13週: 【基礎】化学反応式と量的関係／学生実験「分子量の測定」 第14週: 【基礎】化学の基本法則と原子説・分子説、酸と塩基 第15週: 【基礎】水素イオン濃度とpH 前期末試験 第16週: 【基礎】中和反応と塩の生成 第17週: 【基礎】中和滴定 第18週: 【基礎】酸化と還元 第19週: 【基礎】酸化剤と還元剤 第20週: 【基礎】金属の酸化還元反応 第21週: 【基礎・化学】電池 第22週: 【基礎・化学】電気分解 第23週: 後期中間試験 第24週: 【化学】物質の三態、状態変化／学生実験「電気分解」 第25週: 【化学】気体の性質、気体の状態方程式 第26週: 【化学】固体・気体の溶解度、再結晶 第27週: 【化学】蒸気圧降下と沸点上昇、浸透圧、コロイド 第28週: 【基礎・化学】固体の構造(イオン結晶、非晶質) 第29週: 【化学】反応熱と熱化学方程式 第30週: 【化学】ヘスの法則、化学反応と光 学年末試験 *【基礎】は教科書「化学基礎」を、【化学】は教科書「化学」を使用する。				
教科書	竹内敬人ほか「化学基礎」, 「化学」東京書籍				
参考書	東京書籍編集部 編「ニューグローバル 化学基礎+化学」東京書籍				
関連教科	物理、M科: 機械材料学、E科: 電気材料、D科: 材料学、A科: 建築材料などをはじめとした専門科目				
基礎知識	数学(ごく基礎的な計算)、国語(読解力と明確な表現)、中学校理科など				
成績の評価方法	総合評価割合			授業での到達目標が達成され、化学に関する基礎的な概念や法則が習得できたかを評価する。成績は定期試験、実験レポート、小テスト、課題の提出状況より総合的に評価する。評価点は定期試験(70%) + 実験レポート(20%) + 小テスト(10%)の割合で算出する。	
	定期試験		70%		
	レポート		20%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		0%		
備考				100%	

対象学科	物質工学科		担当教員	物質工学科 竹中敦司	
授業科目名	基礎化学		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	我々の身の周りには様々な物質があり、工学分野においては材料の性質を正確に把握して、それぞれの場面に適した物質を利用する必要があるため、物質に関する知識は必須のものである。 基礎化学では、技術者としてはもちろん、一般教養としても欠かせない、基礎的な化学知識を学び、基礎力を養うことで、2年次以降に設置されている専門科目に取り組める力をつける。実験は物質工学基礎実験では行わないテーマに取り組み、化学現象についての理解を深める。身近な化学物質の性質を知り、これらが自然環境へ及ぼす影響を考えることで、環境化学分野での倫理力も養いたい。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	基本的な化学の概念や原理・法則を理解し、論理的に探求する能力と態度を身につける。身近な日常生活や各専門分野での些細な化学現象も、興味をもって観察し、論理的に理解できることを目標とする。具体的には (1) 物質の性質や変化を原子・分子の微視的な視点から理解できる (2) 物質質量などの概念を理解し、論理的に量的関係を計算できる (3) 三態相互の変化を粒子的観点で理解できる (4) 中和反応・酸化還元反応などの化学反応に関する基本的事項を理解できる (5) 気体、溶液の性質に関する基本的な計算ができる				
授業の進め方とアドバイス	座学が中心となるが、理解を深めるため、授業時間の2割程度を演習にあてる。さらに4回の学生実験により実際の化学現象を観察し、実験結果をプリントに記入し、レポートとして提出する。定期試験以外に4回小テストを行い、理解力を養う。オフィスアワーは別途掲示等で知らせる(原則として木曜日放課後)。オフィスアワー以外の放課後、休憩時間にも可能であれば質問を受け付ける。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 【基礎】純物質と混合物、化合物と元素、物質の三態 第3週: 【基礎】物質の三態、原子の構造 / 学生実験「混合物の分離」 第4週: 【基礎】元素の周期律と元素の性質 第5週: 【基礎】イオンとイオン結合、共有結合 第6週: 【基礎】配位結合、分子間力 第7週: 【基礎】金属結合と金属結晶の構造 / 学生実験「結晶の電気伝導」 第8週: 【基礎】化学結合と物質の分類・用途 第9週: 前期 中間試験 第10週: 【基礎】原子量・分子量・式量 第11週: 【基礎】物質質量 第12週: 【基礎】物質質量、溶液の濃度 第13週: 【基礎】化学反応式と量的関係 / 学生実験「分子量の測定」 第14週: 【基礎】化学反応式と量的関係 / 化学の基本法則と原子説・分子説 第15週: 【基礎】水素イオン濃度とpH、酸と塩基 前期期末試験 第16週: 【基礎】中和反応と塩の生成、中和滴定 第17週: 【基礎】酸化と還元 第18週: 【基礎】酸化剤と還元剤 第19週: 【基礎】金属の酸化還元反応 第20週: 【基礎・化学】電池 第21週: 【基礎・化学】電池、電気分解 第22週: 【基礎・化学】電気分解 / 学生実験「電気分解」 第23週: 後期 中間試験 第24週: 【化学】物質の三態、状態変化 第25週: 【化学】気体の性質、気体の状態方程式 第26週: 【化学】固体・気体の溶解度、再結晶 第27週: 【化学】蒸気圧降下と沸点上昇、浸透圧、コロイド 第28週: 【基礎・化学】固体の構造(イオン結晶、非晶質) 第29週: 【化学】反応熱と熱化学方程式 第30週: 【化学】ヘスの法則、化学反応と光 学年末試験 *【基礎】は教科書「化学基礎」を、【化学】は教科書「化学」を使用する。				
教科書	竹内敬人ほか「化学基礎」, 「化学」東京書籍				
参考書	東京書籍編集部 編「ニューグローバル 化学基礎+化学」東京書籍				
関連教科	物理、全専門科目				
基礎知識	数学、国語など				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、化学に関する基礎的な概念や法則が習得できたかを評価する。成績は定期試験、実験レポート、小テストをもとに総合的に評価する。評価点は定期試験(70%) + 実験レポート(20%) + 小テスト(10%)の割合で算出する。		
	定期試験		70%		
	レポート		20%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		0%		
備考			100%		

対象学科	M, E, D, A		担当教員	M:亀山(非常勤), E:田中晋(前期)・藤井雄(後期), D:亀山(非常勤), A:藤井貴(前期), 櫻間(後期)	
授業科目名	化学II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	我々の身の周りには様々な物質があり、人類はそれら物質の性質を上手く活用しながら生活してきた。さらに各工学分野においては、材料の性質を正確に把握して、それぞれの場面に適した物質を利用するため、物質に関する知識は必須のものである。 本講では、各物質のもつ性質や特徴的な反応を系統的に確認し、技術者としてはもちろん、一般教養としても欠かせない、基礎的な化学知識を学んで、基礎力を養う。また、これら基礎的な内容を発展させ、応用できるよう、演習および実験に取り組む。また、身近な化学物質の性質を知り、これらが自然環境へ及ぼす影響を考えることで、環境化学分野での倫理力を養う。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	基本的な化学の概念や原理・法則を理解し、論理的に探求する能力と態度を身につける。身近な日常生活や各専門分野での些細な化学現象も、興味をもって観察し、論理的に理解できることを目標とする。具体的には (1) 周期表をもとに、物質の性質を系統的に理解できる (2) 無機化合物の反応を理解し、系統的な金属イオンの分離などに応用できる (3) 分子構造および官能基による各有機化合物の特性を体系的に理解できる (4) 物質の安全性へ関心を寄せ、環境問題に関する基礎的な知識をもつこと				
授業の進め方とアドバイス	座学が中心となるが、理解を深めるため授業時間の1割程度は演習にあてる。さらに学生実験などにより実際の化学現象を観察し、考察を行ってもらおう。また、課題としてプリントや問題集「ニューグローバル」を課す。これらは自らの力で解き、理解を深めること。また、理解度を確認するため小テストを行う。 担当教員のオフィスアワーは別途掲示等で知らせる。オフィスアワー以外の放課後、休憩時間にも可能であれば質問を受け付ける。				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス・周期表と元素の性質 第2週: 18族(水素と希ガス) 第3週: 17族(ハロゲンとその化合物) 第4週: 16族(酸素・硫黄) 第5週: 16族(硫黄の化合物) 第6週: 15族(窒素とその化合物) 第7週: 15族(リンとその化合物) * 学生実験「硝酸と窒素酸化物」 第8週: 14族(炭素・ケイ素とその化合物) 第9週: <前期中間試験> 第10週: 1族(アルカリ金属とその化合物) 第11週: 2族(2族元素とその化合物) 第12週: 2族(カルシウムの化合物) * 学生実験「アルカリ土類金属」 第13週: 1・2族以外の典型元素(アルミニウム・亜鉛とその化合物) 第14週: 1・2族以外の典型元素(水銀・スズ・鉛とその化合物) 第15週: 遷移元素(3~11族)の特徴、錯イオン、鉄とその化合物 <前期期末試験> 第16週: 銅・銀とその化合物 第17週: クロム・マンガンとその化合物 第18週: 金属イオンの分離と確認 * 学生実験「金属イオンの分離」 第19週: 有機化合物の特徴 第20週: 有機化合物の構造式の決定 第21週: 飽和炭化水素(アルカン) 第22週: 不飽和炭化水素(アルケン) 第23週: <後期中間試験> 第24週: 不飽和炭化水素(アルキン) 第25週: アルコールとエーテル 第26週: アルデヒドとケトン * 学生実験「アルデヒドの性質」 第27週: カルボン酸 第28週: エステル・油脂・セッケン 第29週: 芳香族炭化水素 第30週: 高分子化合物 <学年末試験>				
教科書	竹内敬人ほか「化学」東京書籍				
参考書	東京書籍編集部 編「ニューグローバル 化学基礎+化学」東京書籍				
関連教科	物理、M科:機械材料学、E科:電気材料、D科:材料学、A科:建築材料など				
基礎知識	数学(ごく基礎的な計算)、国語(読解力と明確な表現)、中学校理科など				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、化学に関する基礎的な概念や法則が習得できたかを評価する。成績は定期試験、実験レポート、小テスト、課題の提出状況より総合的に評価する。評価点は定期試験(70%) + 実験レポート(20%) + 小テスト(10%)の割合で算出する。		
	定期試験	70%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	0%			
		100%			
備考					

対象学科	物質工学科		担当教員	物質工学科 遠藤路子	
授業科目名	生物学		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」を養う科目である。生物は生物系科目の基礎となる重要な科目である。生物学的現象のうち物質工学に関連した基礎知識(細胞の構造と機能、生体物質と代謝、核酸と遺伝など)を学習し、工学的に発展させるための基礎知識を習得するものである。また、あらゆる生物によって構成される生態系について学習することにより、生態系の平衡と維持、環境保全の重要性についての認識を深める。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE 学習教育目標			
到達目標	生物の学習範囲を、生物の関連教科に関係する分野の生物現象を理解し、工学的応用に発展させる。具体的には (1)生物の基本的な単位である細胞の構造と働きについて理解することができる。 (2)生体を構成する物質と働きについて理解することができる。 (3)生物体内での化学反応のうち呼吸に関する反応を理解する。 (4)遺伝の法則、遺伝現象について理解する。 (5)生態系の維持、環境保全の重要性を理解する。				
授業の進め方とアドバイス	座学中心でおこなうが、説明を補ったり、具体的な例を示したりするのに「生物図説」を使用する。学習内容を自分の身体にあてはめて考えると興味もて、理解しやすい。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 生物の多様性と共通性 第3週: 生命活動とエネルギー1 第4週: 生命活動とエネルギー2 第5週: 生物と遺伝子 第6週: 遺伝情報の分配 第7週: 遺伝情報とタンパク質の合成1 第8週: 遺伝情報とタンパク質の合成2 第9週: 前期中間試験 第10週: 体内環境1 第11週: 体内環境2 第12週: 体内環境の調節1 第13週: 体内環境の調節2 第14週: 免疫1 第15週: 免疫2 前期期末試験 第16週: 生物の生殖と配偶子の形成1 第17週: 生物の生殖と配偶子の形成2 第18週: 動物の発生1 第19週: 動物の発生2 第20週: 動物の発生のしくみ 第21週: 発生をつかさどる遺伝子 第22週: 植物の発生 第23週: 後期中間試験 第24週: 動物の刺激の受容と反応1 第25週: 動物の刺激の受容と反応2 第26週: 動物の刺激の受容と反応3 第27週: 動物の行動1 第28週: 動物の行動2 第29週: 植物の環境応答1 第30週: 植物の環境応答2 学年末試験				
教科書	湯浅 誠他「生物基礎」,「生物」東京書籍				
参考書	石川 統 他編 ダイナミックワイド「図説生物」統合版 東京書籍				
関連教科	微生物(2、3年)、生化学(3、4年)、分子生物学(5年)、細胞工学(5年)				
基礎知識	化学				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、生物の基本的な構造、機能及び現象が習得されたかを評価する。成績は定期試験(80%)および課題提出(20%)により総合的に評価する。原則として再試は行わない。		
	定期試験	80%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	南 雅樹	
授業科目名	保健体育I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実践を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底)。 (5) 実施場所等の関係により、授業内容を変更する可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 軽運動・ストレッチほか 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(走運動:短距離走) 第6週: 陸上競技(走運動:ハードル走) 第7週: 陸上競技(走運動:リレー) 第8週: 前期中間試験:実技試験 第9週: 講義(健康・体力の構造) 第10週: 水泳(ガイダンス、泳法・泳力の確認) 第11週: 水泳(基本泳法の習得:クロール) 第12週: 水泳(基本泳法の習得:クロール) 第13週: 水泳(基本泳法の習得:平泳ぎ) 第14週: 水泳(基本泳法の習得:平泳ぎ) 第15週: 講義(体力診断、肥満と生活習慣病) 前期末試験:筆記試験、または、レポート 第16週: サッカー(基本技術の習得:ドリブル) 第17週: サッカー(基本技術の習得:キック) 第18週: サッカー(ゲーム戦術) 第19週: サッカー(ルールの習得、ゲーム形式) 第20週: 講義(精神の健康) 第21週: バレーボール(基本技術の習得:パス) 第22週: バレーボール(基本技術の習得:サーブ) 第23週: 後期中間試験:実技試験 第24週: バレーボール(ゲーム戦術) 第25週: バレーボール(ルールの習得、ゲーム形式) 第26週: バドミントン(基本技術の習得)・フライングディスク(基本技術の習得) 第27週: バドミントン(基本技術の習得)・フライングディスク(基本技術の習得) 第28週: バドミントン(ルールの習得、ゲーム形式)・フライングディスク(応用) 第29週: バドミントン(ゲーム形式)・フライングディスク(応用) 第30週: 講義(喫煙と健康、性感染症とその予防) 学年末試験:筆記試験、または、レポート				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), 健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書	新保健体育(大修館書店)				
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合			授業での到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力、実践力が養われたかを評価する。 成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、授業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得意化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。	
	定期試験		40%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		20%		
	その他		30%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科男子		担当教員	非常勤講師 宮崎浩樹	
授業科目名	保健体育I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、我が国発祥の武道である柔道を学び、その精神性と相手の動きに対応した攻防、および安全性確保・自護の技能習得を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 1) 柔道の基本動作と对人的技能を身につけることができる。 2) 相手を尊重する態度と正しい礼儀作法を身につけることができる。 3) 自己の技能の程度に応じて目標を決め、互いに協力して自主的、計画的に練習を行う 4) 審判法を理解する 5) 柔道の歴史とその種目特性を理解する				
授業の進め方とアドバイス	1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 2) 原則として病氣・怪我による見学は出席としない。 3) 服装の徹底(柔道着を着用) 4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底のため)。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス(柔道着の着方を含めて) 第2週: 基本動作(姿勢と組み方: 自然本体, 左右自然体, 自護体, 左右自護体) 第3週: 基本動作(受身: 前受身, 横受身, 後受身) 第4週: 基本動作(受身: 前受身, 横受身, 後受身) 第5週: 基本動作(崩しと体さばき: 前後左右, 斜め左右・斜め前後, 前さばき, 後さばき) 第6週: 基本動作(崩しと体さばき: 前後左右, 斜め左右・斜め前後, 前さばき, 後さばき) 第7週: 投げ技(手技: 背負い投げ, 体落し) 第8週: 投げ技(手技: 背負い投げ, 体落し) 第9週: 投げ技(腰技: 浮腰, 大腰, 跳腰, 払腰, 釣り込み腰) 第10週: 投げ技(腰技: 浮腰, 大腰, 跳腰, 払腰, 釣り込み腰) 第11週: 投げ技(足技: 膝車, 支え釣り込み足, 出足払い, 送り足払い) 第12週: 投げ技(足技: 大内刈り, 小内刈り, 小外刈り, 大外刈り, 内股) 第13週: 固め技(抑え技: 袈裟固, 横四方固, 上四方固, 縦四方固, 肩固) 第14週: 固め技(抑え技: 袈裟固, 横四方固, 上四方固, 縦四方固, 肩固) 第15週: 実技テスト 前期末試験 第16週: 固め技(抑え技: 袈裟固, 横四方固, 上四方固, 縦四方固, 肩固) 第17週: 固め技(関節技: 腕がらみ, 腕ひしぎ十字固) 第18週: 固め技(絞め技: 送り襟絞め, 並十字絞め) 第19週: 技の連続変化(投げ技の連続: 体落→体落, 体落→大内) 第20週: 技の連続変化(投げ技の連続: 体落→小内刈り, 小内刈り→背負い投げ) 第21週: 技の連続変化(相手の技を返す: 大外刈りを返す, 内股すかし) 第22週: 技の連続変化(相手の技を返す: 大外刈りを返す, 内股すかし) 第23週: 技の連続変化(投げ技から固め技: 小内刈り→縦四方固) 第24週: 技の連続変化(投げ技から固め技: 小内刈り→縦四方固) 第25週: 試合・審判法 第26週: 試合・審判法 第27週: 試合・審判法 第28週: 試合・審判法 第29週: 試合・審判法 第30週: 実技テスト 学年末試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), テキスト保健体育(大修館書店)				
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力、実践力が養われたかを評価する。 成績は実技・スキルテストの得点、授業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および関連する技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト	60%			
	その他	40%			
備考			100%		

対象学科	全学科女子		担当教員	非常勤講師 近藤盛一, 湊俊介, 城市正美	
授業科目名	保健体育I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、創作ダンスやフォークダンスなどの踊りを通して、身体表現の芸術文化的理解を深め、健康や安全管理の基礎知識を学習する。また、基本的な技能習得やグループでの活動を通して、運動の楽しさと学生相互の仲間づくりをねらいとしている。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) 4) 適宜、ライフステージにおける健康と運動の関連性や環境、栄養、疾病、精神衛生などについて学習させ、レポート(自己学習)を課す。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス 第2週: 体づくり運動、基本のステップ 第3週: フォークダンス(世界の国々の伝統的な民族舞踊を楽しむ) 第4週: フォークダンス(世界の国々の伝統的な民族舞踊を楽しむ) 第5週: フォークダンス(リズムカルな舞踊の動きと柔軟性を養う) 第6週: エアロビク(リズムにあわせて有酸素運動を楽しむ) 第7週: エアロビク(リズムにあわせて有酸素運動を楽しむ) 第8週: 創作ダンス(グループで小作品をつくる) 第9週: 創作ダンス(グループで小作品をつくる) 第10週: 創作ダンス(グループで小作品をつくる) 第11週: 発表と観賞(お互いの作品を見せ合って交流し合う) 第12週: 日本の民謡(よさこいソーラン節) 第13週: 日本の民謡(よさこいソーラン節) 第14週: 日本の民謡(よさこいソーラン節) 第15週: 日本の民謡(発表) 前期末試験 第16週: ダンスについて課題レポートの作成 第17週: 現代的なリズムのダンス、基本のステップ 第18週: 現代的なリズムのダンス、応用のステップ 第19週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第20週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第21週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第22週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第23週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第24週: 創作ダンス(発表と観賞) 第25週: 創作ダンスについて課題レポートの作成 第26週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第27週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第28週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第29週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第30週: 課題レポートの作成 学年末試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), テキスト保健体育(大修館書店)				
参考書					
関連教科基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力・実践力がどの程度養われたかを評価する。成績は課題(創作ダンス)の完成度、授業時間中の態度や意欲(積極性、協調性)および関連する技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト	70%			
	その他	30%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	南 雅樹・大野政人	
授業科目名	保健体育II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実践を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目指とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底) (5) 天候、実施場所等の関係により、授業内容を変更する可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、軽運動・ストレッチ 第2週: 体力テスト 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(跳運動: 走幅跳) 第6週: 陸上競技(跳運動: 走幅跳、三段跳) 第7週: 陸上競技(跳運動: 走高跳) 第8週: 前期中間試験: 実技試験 第9週: 講義(運動の意義、運動のしくみ(1)) 第10週: 水泳(ガイダンス、泳法と泳力の確認) 第11週: 水泳(基本泳法の習得: 背泳ぎ) 第12週: 水泳(基本泳法の習得: 背泳ぎ) 第13週: 水泳(基本泳法の習得: 平泳ぎ) 第14週: 水泳(メドレー: 各泳法×25m) 第15週: 講義(運動のしくみ(2)) 前期末試験: 筆記試験、または、レポート 第16週: ソフトテニス(基本技術の習得: ストローク) 第17週: ソフトテニス(基本技術の習得: ストローク、ボレー) 第18週: ソフトテニス(ゲーム戦術の習得) 第19週: ソフトテニス(ルールの習得、ゲーム形式) 第20週: ソフトボール(基本技術の習得: 投動作) 第21週: ソフトボール(基本技術の習得: 補給動作、打撃動作) 第22週: ソフトボール(ゲーム戦術の習得) 第23週: 後期中間試験: 実技試験 第24週: ソフトボール(ゲーム形式) 第25週: 講義(トレーニング方法) 第26週: バスケットボール(基本技術の習得: パス、ドリブル)・卓球(基本技術の習得) 第27週: バスケットボール(基本技術の習得: シュート)・卓球(基本技術の習得) 第28週: バスケットボール(ゲーム戦術の習得)・卓球(ゲーム形式: シングルス) 第29週: バスケットボール(ゲーム戦術の習得)・卓球(ゲーム形式: ダブルス) 第30週: 講義(栄養と食生活) 学年末試験: 筆記試験、または、レポート				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店)、健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書	新保健体育(大修館書店)				
関連教科					
基礎知識	保健体育1				
成績の評価方法	総合評価割合			授業での到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および応用力、実践力が養われたかを評価する。 成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。	
	定期試験		40%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		20%		
	その他		30%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	池本幸雄・南 雅樹・大野政人, 非常勤講師 野嶋将至	
授業科目名	保健体育III		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実践を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE 学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底) (5) 天候、実施場所等の関係により、授業内容を変更する可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、軽運動・ストレッチ 第2週: 体力テスト 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(投運動: 砲丸投) 第6週: 陸上競技(投運動: 砲丸投、円盤投) 第7週: 陸上競技(投運動: ヤリ投) 第8週: 前期中間試験: 実技試験 第9週: 講義(運動と心理) 第10週: 水泳(ガイダンス、泳法・泳力の確認) 第11週: 水泳(3泳法の練習、潜水) 第12週: 水泳(3泳法の練習、スタート) 第13週: 水泳(メドレー: 各泳法×50m) 第14週: 講義(運動と外傷、障害) 第15週: テニス(基本技術の習得: ストローク) 前期末試験: 筆記試験、または、レポート 第16週: テニス(基本技術の習得: ボレー、スマッシュ) 第17週: テニス(基本技術の習得: スープ、ゲーム戦術) 第18週: テニス(ルールの習得、ゲーム形式: シングルス) 第19週: テニス(ゲーム形式: ダブルス) 第20週: バレーボール(基礎から応用技術の習得) 第21週: バレーボール(基礎から応用技術の習得) 第22週: バレーボール(ゲーム形式) 第23週: 後期中間試験: 実技試験 第24週: バレーボール(ゲーム形式) 第25週: 講義(運動・スポーツの効果(1)) 第26週: バasketボール(基礎から応用技術の習得)・フットサル(基本技術の習得) 第27週: バasketボール(基礎から応用技術の習得)・フットサル(基本技術の習得) 第28週: バasketボール(ゲーム形式)・フットサル(ゲーム形式) 第29週: バasketボール(ゲーム形式)・フットサル(ゲーム形式) 第30週: 講義(運動・スポーツの効果(2)) 学年末試験: 筆記試験、または、レポート				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), 健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書	新保健体育(大修館書店)				
関連教科					
基礎知識	保健体育1、保健体育2				
成績の評価方法	総合評価割合			授業での到達目標が達成され、基本技術の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力、実践力が養われたかを評価する。成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。	
	定期試験		40%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		20%		
	その他		30%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	池本幸雄・大野政人	
授業科目名	保健体育IV		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態	実技	単位種別	履修
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実施を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎および応用知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、将来にわたり継続的にスポーツを楽しむ(生涯スポーツへの導入)ための意識・習慣・実践力を高める。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-1 建築PRG:A-1, D-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:c 建築PRG:c, g	
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎および応用知識を理解すること。 (2) 自己の身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力ができること。 (3) 生涯スポーツに繋がる計画・企画・実践ができること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底) (5) 天候、実施場所等の関係により、授業内容を変更する可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、軽運動・ストレッチ 第2週: 体力テスト 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(混成競技) 第6週: 陸上競技(混成競技) 第7週: テニス(基本および応用技術の確認) 第8週: 前期中間試験:実技試験 第9週: テニス(ゲーム形式) 第10週: テニス(ゲーム形式) 第11週: 水泳(ガイダンス、泳法・泳力の確認) 第12週: 水泳(メドレー、水球) 第13週: 水泳(水球、シュノーケリング) 第14週: 講義 第15週: ゴルフ(基本後術の習得:スタンス、グリップ) 前期末試験:筆記試験、または、実技試験、または、レポート 第16週: ゴルフ(基本技術の習得:スウィング) 第17週: ゴルフ(校外施設を利用した実践的練習) 第18週: ゴルフ(校外施設を利用した実践的練習) 第19週: ゴルフ(校外施設を利用した実践的練習) 第20週: サッカー(基本および応用技術の確認)・ソフトボール(基本および応用技術の確認) 第21週: サッカー(ゲーム形式)・ソフトボール(ゲーム形式) 第22週: サッカー(ゲーム形式)・ソフトボール(ゲーム形式) 第23週: 後期中間試験:実技試験 第24週: バレーボール(基本および応用技術の確認)・卓球(基本および応用技術の確認) 第25週: バレーボール(ゲーム形式)・卓球(ゲーム形式) 第26週: バレーボール(ゲーム形式)・卓球(ゲーム形式) 第27週: バasketボール(基本および応用技術の確認)・バドミントン(基本および応用技術の確認) 第28週: バasketボール(ゲーム形式)・バドミントン(ゲーム形式) 第29週: バasketボール(ゲーム形式)・バドミントン(ゲーム形式) 第30週: 講義 学年末試験:筆記試験、または、レポート				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店)、健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書					
関連教科					
基礎知識	保健体育1、保健体育2、保健体育3				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本および応用技術の習得と基本的な知識の理解を踏まえた応用力、実践力が養われたかを評価する。成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験		40%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		40%		
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	池本幸雄・南 雅樹・大野政人	
授業科目名	保健体育V		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態	実技	単位種別	履修
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実施を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎および応用知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、将来にわたり継続的にスポーツを楽しむ(生涯スポーツへの導入)ための意識・習慣・実践力を高める。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-1 建築PRG:A-1, D-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG:c 建築PRG:c, g	
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎および応用知識を理解すること。 (2) 自己の身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力ができること。 (3) 生涯スポーツに繋がる計画・企画・実践ができること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病氣・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底) (5) 天候、実施場所等の関係により、授業内容を変更する可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第 1週:授業のガイダンス(授業運営や種目の選択) 第 2週～第14週 【前期】:下記の種目について、選択制を導入する。 (屋内)バスケットボール, バレーボール, バドミントン, フットサル, 卓球 (屋外)サッカー, テニス, ソフトボール, ゴルフ, 水泳 第15週:課題レポートの作成、提出または筆記試験を実施する				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店)				
参考書	健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
関連教科					
基礎知識	保健体育1, 保健体育2, 保健体育3, 保健体育4				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、審判・ルールに基づくゲームから各運動技能の実践力が養われたかを評価する。 成績は課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験				
	レポート	30%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	50%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 柏木美千代	
授業科目名	音楽I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は、「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材を育成する」という本校の教育理念・目標に基づき、さまざまな音楽を体感することにより、自己表現や創造力を高め、生涯にわたり音楽に親しんでいく心を育てる。また、音楽を通して、国際化、多様化する社会に対応できる「コミュニケーション力」を育む。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱において、のびのびとした発声で、曲想にあった表現ができる。 ・基礎的な楽典を理解し、あわせて楽曲の歴史的・社会的背景を知ることにより、一層深みのある演奏に生かすことができる。 ・多彩な楽曲を鑑賞することにより、さまざまなジャンルの音楽についての興味・関心を広げることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の自主性や到達度に配慮しながら、教材や進度を検討する。 ・授業内容、その他に関する質問は、授業の前後に適宜、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 修学ガイダンス 第3週 歌唱(フォークソング) 第4週 歌唱・鑑賞(フォークソング) 第5週 歌唱(イタリア語の歌) 第6週 歌唱・鑑賞(イタリア語の歌) 第7週 歌唱(イタリア語の歌) 第8週 鑑賞(モーツァルトの音楽) 第9週 歌唱(イタリア語の歌) 第10週 鑑賞(洋楽) 第11週 歌唱(イタリア語の歌) 第12週 鑑賞(オーケストラ入門) 第13週 中間実技試験 第14週 中間実技試験 第15週 鑑賞(映画音楽) 第16週 鑑賞(映画音楽) 第17週 歌唱(ドイツ歌曲) 第18週 西洋音楽史 第19週 歌唱(ドイツ歌曲) 第20週 西洋音楽史 第21週 歌唱(ドイツ歌曲) 第22週 西洋音楽史(ピアノ史) 第23週 歌唱(ドイツ歌曲) 第24週 鑑賞(日本の伝統芸能) 第25週 歌唱(ドイツ歌曲) 第26週 鑑賞(ミュージカル) 第27週 期末実技試験 第28週 期末実技試験 第29週 総まとめ・鑑賞 第30週 総まとめ・鑑賞				
教科書	MOUSA I(教育芸術社)				
参考書					
関連教科	地理、歴史、国語、英語、ドイツ語				
基礎知識	歌唱、器楽、楽典				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験50% レポート20% 演習20% その他10%		
	定期試験	50%	「その他」は、出席・遅刻等の評価で、授業態度など平素の取り組みを重視する。		
	レポート	20%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 柏木美千代	
授業科目名	音楽II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	1
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は、「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材を育成する」という本校の教育理念・目標に基づき、さまざまな音楽を体感することにより、自己表現や創造力を高め、生涯にわたり音楽に親しんでいく心を育てる。また、1年の音楽で学んだ内容を礎として、さらに理解を深め、より主体的に自らを表現し感性を磨いていく力を育てる。				
関連する本校の学習教育目標	A	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱やギターのアンプを通して、奏法や表現を工夫し、グループ活動を行うことで協調性を養い、一つの音楽を創りあげる楽しさや達成感を味わうことができる。 ・多彩な楽曲を演奏・鑑賞することにより、歴史的・文化的背景との関わりにより理解を深めることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・個々や各グループの自主性や到達度に配慮しながら、教材や進度を検討する。 ・授業内容、その他に関する質問は、授業の前後に適宜、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週 授業ガイダンス・歌唱(合唱 音取り) 第2週 歌唱(合唱 音取り)・楽典(音階) 第3週 歌唱(合唱 音取り) 第4週 楽典(音程)・鑑賞(フランスの歌曲) 第5週 鑑賞(映画ミュージカル) 第6週 鑑賞(映画ミュージカル) 第7週 歌唱(合唱)楽典まとめ 第8週 合唱 班活動 第9週 合唱 班活動 第10週 合唱 班活動 第11週 合唱 班活動 第12週 合唱 班活動 第13週 中間実技試験(合唱) 第14週 中間実技試験(合唱) 第15週 鑑賞(オペラ) 第16週 鑑賞(オペラ) 第17週 鑑賞(オペラ) 第18週 鑑賞(オペラ) 第19週 ギター入門・コードネーム 第20週 ギター基礎練習 第21週 ギター基礎練習 第22週 ギター基礎練習 第23週 ギター基礎練習 第24週 ギター基礎練習 課題練習 第25週 ギター基礎練習 課題練習 第26週 ギター基礎練習 課題練習 第27週 期末実技試験 第28週 期末実技試験 第29週 総まとめ・鑑賞 第30週 総まとめ・鑑賞				
教科書	MOUSA I(教育芸術社)				
参考書	アコースティックギターに関する曲集				
関連教科	地理、歴史、国語、英語、ドイツ語				
基礎知識	歌唱、器楽、楽典				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験50% レポート20% 演習20% その他10%		
	定期試験	50%	「その他」は、出席・遅刻等の評価で、授業態度など平素の取り組みを重視する。		
	レポート	20%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	鈴木章子 酒井康宏	
授業科目名	英語総合I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業では本校の教育目標のうち「技術者としての基礎力」と「社会とかかわるためのコミュニケーション力」の育成を目指す。英語の4技能「読む」「話す」「聞く」「書く」をバランスよく養うとともに、様々な内容の英文にふれることによって、異文化に対する理解を深める。また、授業外での多読を実施する。簡単なものから読み始め、英語を読むことに慣れ親しむことを目標とする。				
関連する本校の学習教育目標	(E)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<p>中学校で習得した英語の知識を基礎にして、語彙、文法、読解力、表現力を身につける。さらに、習得した語彙、文法、表現力を使い、基礎的な英語を読んだり書いたりできると共に、正しい発音、リズム、アクセントで簡単な日常会話ができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新出構文・文法事項を理解し、自らも使用できる 2. 新出単語・熟語の使い方を理解し、自らも使用できる 3. 英文の内容を、リスニング・リーディングを通して理解できる 4. 英文を正しい発音・アクセントで音読できる 5. 英文の内容について、自分の考えを英語で表現できる 				
授業の進め方とアドバイス	ペア・グループでの活動を中心に授業をすすめる。授業に集中し、その日の内容は授業中に理解できるよう心がけること。教科書の音読、単語練習、文法事項の理解、宿題、単語テストの勉強等を行い、学んだことが定着するよう家での復習を充実させること。授業には必ず辞書を携帯し、例文検索、成句検索などいろいろな機能を使って学習に役立ててほしい。授業に関する質問は適宜受け付ける。原則として毎週COCET2600の小テストを行う。Lessonが終わるごとに小テストを実施する。				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 修学ガイダンス 第2週: Lesson 1 (本文) 第3週: Lesson 1 (本文) 第4週: Lesson 2 (本文) 第5週: Lesson 2 (本文) 第6週: Lesson 3 (本文) 第7週: Lesson 3 (本文) 第8週: 前期中間試験 第9週: Lesson 4 (本文) 第10週: Lesson 4 (本文) 第11週: Lesson 5 (本文) 第12週: Lesson 5 (本文) 第13週: Lesson 6 (本文) 第14週: Lesson 6 (本文) 第15週: 前期の復習 前期期末試験 第16週: Lesson 7 (本文)、夏休み明けテスト 第17週: Lesson 7 (本文) 第18週: Lesson 7 (本文) 第19週: Lesson 8 (本文) 第20週: Lesson 8 (本文) 第21週: Lesson 8 (本文) 第22週: 復習 第23週: 後期中間試験 第24週: Lesson 9 (本文) 第25週: Lesson 9 (本文) 第26週: Lesson 9 (本文)、冬休み明けテスト 第27週: Lesson 10 (本文) 第28週: Lesson 10 (本文) 第29週: Lesson 10 (本文) 第30週: 後期の復習 学年末試験</p>				
教科書	MY WAY English Communication 1(三省堂)、COCET2600(成美堂)、図書館の多読図書				
参考書	MY WAY English Communication 1ワークブック[アドバンス](三省堂)				
関連教科	基礎英語演習・英会話				
基礎知識	中学校で学習した内容				
成績の評価方法	総合評価割合		小テストにはCOCET2600単語テスト、レッスンの小テストを含む。レポートは提出物のことである。授業への積極的な取組を評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	中井大造 青砥正彦	
授業科目名	英語総合II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「技術者としての基礎力・コミュニケーション力」を養う科目である。授業ではテキストに従って、英語を「読む」「話す」「聞く」「書く」ための基本的能力を養うとともに、様々な内容の英文にふれることによって、異文化に対する理解を深めることができる。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>一年生で修得した英語の知識を土台にして、それよりさらに発展した文章の概要や要点を読み取ることができる。さらに主体的に英語を読み、書き、話し、聞く学習態度を身につけ、自らすすんで積極的にコミュニケーション活動に取り組む素地を養う。</p> <p>教材の内容に従い、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新出構文、文法事項を理解する 2. 新出単語・熟語の使い方を理解し語彙力を高める 3. 英文の内容をリスニング・リーディングを通して正しく理解する 4. 英文を正しい発音・アクセントで音読する 5. 英文の内容について自分の考えを英語で表現することを目標とする。 				
授業の進め方とアドバイス	<p>本文を書き、新出単語・熟語を辞書で調べ、本文の内容をおおまかに理解して授業に臨むこと。授業に集中し、その日の内容はできるだけ授業中に理解するように心がける。</p> <p>COCE2600の小テストは原則毎週行う。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: ガイダンス Lesson 1 (Big Dipper English Communication II)</p> <p>第2週: Lesson 1</p> <p>第3週: Lesson 1</p> <p>第4週: Lesson 1</p> <p>第5週: Lesson 1</p> <p>第6週: Lesson 1 のまとめ</p> <p>第7週: Lesson 1 のまとめ</p> <p>第8週: 前期中間試験</p> <p>第9週: Lesson 2</p> <p>第10週: Lesson 2</p> <p>第11週: Lesson 2</p> <p>第12週: Lesson 2</p> <p>第13週: Lesson 2 のまとめ</p> <p>第14週: Lesson 2 のまとめ</p> <p>第15週: 総復習 前期期末試験</p> <p>第16週: Lesson 3</p> <p>第17週: Lesson 3</p> <p>第18週: Lesson 3</p> <p>第19週: Lesson 4</p> <p>第20週: Lesson 4</p> <p>第21週: Lesson 4</p> <p>第22週: まとめ</p> <p>第23週: 後期中間試験</p> <p>第24週: Lesson 5</p> <p>第25週: Lesson 5</p> <p>第26週: Lesson 5</p> <p>第27週: Lesson 6</p> <p>第28週: Lesson 6</p> <p>第29週: Lesson 6</p> <p>第30週: まとめ 学年末試験</p>				
教科書	Big Dipper English Communication II (数研出版)、理工系学生のための必修英単語2600 Workbook 2				
参考書					
関連教科	基礎英語会話 英語基礎演習				
基礎知識	1年次で学習した英語総合・英語演習・英会話				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		60%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	中島美智子 中井大造 青砥正彦	
授業科目名	英語総合III		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	テキストの教材に従って、英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」ための基本的能力を養うとともに、様々な内容の英文に触れることにより、異文化に対する理解を深める。 語彙の増強を図る				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>全体目標としてのコミュニケーション能力育成の中で、一年次・二年次で習得した知識をもとに、新たな文法事項を習得し、語彙力を高め、より複雑な文章の概要や要点を正確に読み取ることができるようになるとともに、場面や目的に応じて、主体的に英語を読み・書き・話し・聞くことにより英語運用能力を高める。また様々な英文にふれることで、異文化に対する理解を深める。</p> <p>授業においては、教材の内容に従い、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新出構文、文法事項を理解できる。 2. 新出単語・熟語の使い方を理解し、語彙力を高めることができる。 3. 英文の内容を、リスニング・リーディングを通して理解できる。 4. 英文を正しい発音・アクセントで音読できる。 5. 英文の内容について自分の考えを英語で表現できる。 <p>ことを目標とする。</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>* 予習が必要である。新出単語・熟語を辞書で調べ、本文についておおまかな内容を考えて授業に臨んでもらいたい。授業には必ず辞書を携帯すること。</p> <p>* 授業に集中し、その日の内容はできるだけ授業中に理解するように心がけてほしい。</p> <p>* 毎週、語彙の小テストを実施する。</p> <p>* 質問対応については、週1回放課後1時間程度設ける。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: オリエンテーション</p> <p>第2週: Lesson 5(1)(2) Reading</p> <p>第3週: Lesson 5(3)(4) Reading</p> <p>第4週: Lesson 6(1)(2) Reading</p> <p>第5週: Lesson 6(3)(4) Reading</p> <p>第6週: 復習(1)</p> <p>第7週: 復習(2)</p> <p>第8週: 前期中間試験</p> <p>第9週: Lesson 7(1)(2) Reading</p> <p>第10週: Lesson 7(3)(4) Reading</p> <p>第11週: Lesson 8(1)(2) Reading</p> <p>第12週: Lesson 8(3)(4) Reading</p> <p>第13週: 前期の総合的復習(1)</p> <p>第14週: 前期の総合的復習(2)</p> <p>第15週: 前期の総合的復習(3)</p> <p>前期期末試験</p> <p>第16週: Lesson 9(1) Reading</p> <p>第17週: Lesson 9(2) Reading</p> <p>第18週: Lesson 9(3) Reading</p> <p>第19週: Lesson 9(4) Reading</p> <p>第20週: 復習(1)</p> <p>第21週: 復習(2)</p> <p>第22週: 復習(3)</p> <p>第23週: 後期中間試験</p> <p>第24週: Lesson 10(1) Reading</p> <p>第25週: Lesson 10(2) Reading</p> <p>第26週: Lesson 10(3) Reading</p> <p>第27週: Lesson 10(4) Reading</p> <p>第28週: 後期の総合的復習(1)</p> <p>第29週: 後期の総合的復習(2)</p> <p>第30週: 後期の総合的復習(3)</p> <p>学年末試験</p>				
教科書	My Way II (三省堂) 教科書準拠ワークブック(三省堂) COCET2600(成美堂)				
参考書					
関連教科	英語基礎演習・基礎英語会話				
基礎知識	第2学年までの英語総合、基礎英語会話、基礎英語演習				
成績の評価方法	総合評価割合			その他: 積極的な授業参加の態度を評価する。居眠り、私語、携帯の使用、漫画や小説などの隠れ読み、他の教科の勉強(いわゆる内職)などは減点の対象とする。	
	定期試験		70%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	中島美智子 中井大造 能登路純子	
授業科目名	基礎英語演習I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるためのコミュニケーション能力を養う科目である。中学校で習得した語彙・文法を基礎にして、さらに英語の理解と表現の幅を広げるための文法事項を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばす基礎となる文法力を身につける。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 学んだ文法のルールが理解できる。 2) 学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりできる。 3) 学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりできる。				
授業の進め方とアドバイス	文法書とワークを使いながら授業を進める。毎授業新しい文法事項を学ぶため、その日のうちに復習をし、学習内容を定着させること。復習用の問題集があるのでそれを宿題として解き、毎時間提出すること。授業に関する質問は適宜受けつける。積極的な授業参加を期待する。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス、中学で学習した主な文法事項 第2週 文の成り立ち、文の種類 第3週 文型と動詞(1) 第4週 文型と動詞(2) 第5週 plus 文型と動詞 第6週 前期中間試験までのまとめ 第7週 前期中間試験 第8週 時制(1) 第9週 時制(2) 第10週 完了形(1) 第11週 完了形(2) 第12週 plus 時制と完了形 第13週 総復習 第14週 前期期末試験までのまとめ 第15週 前期のまとめ 前期期末試験 第16週 助動詞(1) 第17週 助動詞(2) 第18週 助動詞(3) 第19週 plus 助動詞 第20週 受動態 第21週 plus 受動態 第22週 後期中間試験 第23週 不定詞(1) 第24週 不定詞(2) 第25週 不定詞(3) 第26週 plus 不定詞 第26週 動名詞 第27週 plus 動名詞 第28週 分詞(1) 第29週 分詞(2) 第30週 plus 分詞 学年末試験				
教科書	Vision Quest English Grammar 24 (啓林館)、English Grammar 24 Workbook (啓林館) Ultimate 総合英語 (啓林館)				
参考書					
関連教科	英語総合・英語会話				
基礎知識	中学校で学習した内容				
成績の評価方法	総合評価割合		レポートは提出物を、その他は授業参加状況をさす。		
	定期試験		70%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		10%		
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	青砥正彦 鈴木章子	
授業科目名	基礎英語演習II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるためのコミュニケーション能力を養う科目である。基礎英語演習1からの継続で、さらに英語の理解と表現の幅を広げるための文法事項を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばす基盤となる文法力を身につける。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 1年生で習得した文法事項のうえにさらに基礎的な事項を積み重ね学習できる。 2) 学んだ文法を応用して、文章を読んだり書いたりできる。 3) 学んだ知識を応用して、文を聞いて理解したり、話したりできる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心にして授業を進めるが、文法に関連する例文をできるだけ多く例示し、練習問題を多くこなす中で文法に関する知識を身につけられるようにする。授業に関する質問は適宜受けつける。積極的な授業参加を期待する。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 不定詞(3) 第3週 動名詞 第4週 分詞(1) 第5週 前期中間試験までのまとめ1 第6週 前期中間試験までのまとめ2 第7週 前期中間試験 第8週 分詞(2) 第9週 準動詞 第10週 比較(1) 第11週 比較(2) 第12週 比較(3) 第13週 前期のまとめ1 第14週 前期のまとめ2 第15週 前期のまとめ3 前期期末試験 第16週 関係詞(1) 第17週 関係詞(2) 第18週 Further Study 第19週 関係詞 第20週 後期中間試験までのまとめ1 第21週 後期中間試験までのまとめ2 第22週 後期中間試験までのまとめ3 第23週 後期中間試験 第24週 仮定法(1) 第25週 仮定法(2) 第26週 注意すべき仮定法 第26週 後期まとめ1 第27週 後期まとめ2 第28週 後期まとめ3 第29週 1年間のまとめ1 第30週 1年間のまとめ2 学年末試験				
教科書	INSPIRE English Grammar 24 Units(文英堂)、INSPIRE English Grammar 24 Units Workbook(文英堂)				
参考書	INSPIRE総合英語(文英堂)				
関連教科	英語総合 基礎英語会話 基礎英語演習I				
基礎知識	中学校、高専1年生で学んだ英語				
成績の評価方法	総合評価割合			レポートは提出物。	
	定期試験		70%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		20%		
	その他				
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	酒井康宏 鈴木章子 能登路純子	
授業科目名	基礎英語演習Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるためのコミュニケーション能力を養う科目である。基礎英語演習2からの継続で、さらに英語の理解と表現の幅を広げるための文法事項を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばす基盤となる文法力を身につける。3年生後期補講期間に実施されるTOEICに向けて、問題演習を含めた実践的な対策を行う。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 学んだ文法のルールが理解でき、問題演習などでそのルールを使える。 2) 学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりできる。 3) 学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりできる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書に沿って授業を進める。毎授業新しい文法事項を学ぶため、その日のうちに復習をし、学習内容を定着させること。復習用の問題集があるのでそれを宿題として行い、提出すること。授業に関する質問は適宜受けつける。積極的な授業参加を期待する。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 関係詞(1) 第3週 関係詞(2) 第4週 関係詞(3) 第5週 Plus複合関係詞 第6週 前期中間試験までのまとめ1 第7週 前期中間試験までのまとめ2 第8週 前期中間試験 第9週 仮定法(1) 第10週 仮定法(2) 第11週 Plus仮定法 第12週 Option 動詞と文型 第13週 前期期末試験までのまとめ1 第14週 前期期末試験までのまとめ2 第15週 前期期末試験までのまとめ3 前期期末試験 第16週 Option 動詞と文型 第17週 Option 疑問詞と疑問文 第18週 Option 否定 第19週 Option いろいろな構文 第20週 後期中間試験までのまとめ1、TOEIC演習 第21週 後期中間試験までのまとめ2、TOEIC演習 第22週 後期中間試験 第23週 Option 前置詞 第24週 Option 代名詞 第25週 Option 接続詞 第26週 Option 時制の一致、語法 第27週 TOEIC演習 第28週 TOEIC演習 第29週 後期期末試験までのまとめ1 第30週 後期期末試験までのまとめ2 学年末試験				
教科書	Benchmark English Grammar More Drills 7th Edition. (桐原書店)				
参考書					
関連教科基礎知識	英語総合ⅠⅡ 基礎英語演習ⅠⅡ 基礎英語会話ⅠⅡ 中学校、高専1、2年生で学んだ英語				
成績の評価方法	総合評価割合			レポートは提出物のことである。單元ごとに小テストを行うので、少しずつ復習を進めること。授業への積極的な取組を評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		10%		
備考				100%	

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 フランク・バートン (Frank Barton)	
授業科目名	基礎英語会話I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるコミュニケーション能力を養成する。基礎的な会話の技術と能力を習得し、会話に必要な文章表現と語彙を身につける。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 語彙力をつけること。 2) 会話表現を暗記すること。 3) 自己表現ができるようになること。 4) 会話表現が時、場所、機会に応じて使用出来るようになること。 5) 言語や文化の違いを理解すること				
授業の進め方とアドバイス	できるだけ自由に発言、会話ができるようにしたいので、恥ずかしがらず、積極的に発言、発言すること。質問があれば自由に行うこと。その度ごとに答えます。非常勤のためオフィスアワーが設けられないので、授業の前後に対応する。常勤の先生のところへ行くのもよい。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 発音について 第3週: あいさつ 第4週: 会話練習 第5週: 丁寧表現 第6週: 音読 第7週: 語彙 第8週: 前期中間試験 第9週: 冬休会話 第10週: 会話練習 第11週: 語彙チェック 読み 第12週: 新出語彙 会話練習 第13週: 説明の英語 第14週: 質問の英語 第15週: 新出語彙 前期期末試験 第16週: 要求の英語 第17週: 口ならしの会話 第18週: 語彙の宿題のチェック 第19週: ほめる英語 第20週: 丁寧表現その2 第21週: 新出語彙 第22週: 自由に質問する練習 第23週: 後期中間試験 第24週: 電話の会話 第25週: 語彙チェック 読み 第26週: 発音練習 第27週: 案内の会話 第28週: 気持ちや考えを表現する会話 第29週: 語彙チェック 会話練習 第30週: 場面会話 学年末試験				
教科書	New Sight (櫻苑) ONE WORLD ENGLISH AMENG English Course				
参考書					
関連教科	英語総合I 基礎英語演習I				
基礎知識	中学校の学習内容				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験90% その他10%		
	定期試験	90%	その他は、コミュニケーション力に必要なと思われる出席を含む授業への参加姿勢、話掛けに対する応答、話し方の技術、課題、スピーチなどを総合して評価する。		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 山根アドリアナ	
授業科目名	基礎英語会話II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は初級の学習者が英語でコミュニケーションをする自信をつけるのに役立つものである。英語の語彙、文法、言い回しを使って自分のことや意見、考えを相手に伝える練習をする。				
関連する本校の学習教育目標	(E)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	1) 英語を話す自信をつけること 2) 以前に学習したことを使う能力を高めること 3) 自分の経験や興味を話す能力を高めることができる。 4) 語彙力をつけること。				
授業の進め方とアドバイス	授業では、短い会話練習、語彙と構文の聞き取り、文法チェック、ペアワークによる情報、意見交換の練習、宿題などがある。授業は英語で行い、毎週小テストと宿題を出す。目指すは英語の進歩と楽しむことである。非常勤なのでオフィスアワーは設けないが、授業の前後に質問等があればしてもらいたい。また、常勤の先生のところへ行くのもよい。				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス 第2週: Unit 1 導入と名前について 第3週: Unit 2 人の表し方 第4週: Unit 3 衣服 第5週: Unit 4 日課 第6週: Unit 5 日付 第7週: Unit 6 仕事 第8週: 前期中間試験 第9週: Unit 7 好きなもの 第10週: Unit 8 スポーツと運動 第11週: Unit 9 場所 第12週: Unit 10 家族 第13週: Unit 11 娯楽 第14週: Unit 12 価格 第15週: 復習とまとめ 前期期末試験 第16週: Unit 13 レストラン 第17週: Unit 14 小話 第18週: Unit 15 休日 第19週: Unit 16 アパートに住む 第20週: Unit 17 希望と計画 第21週: Unit 18 天候 第22週: 復習とまとめ 第23週: 後期中間試験 第24週: Unit 19 買い物 第25週: Unit 20 物の表し方 第26週: Unit 21 指示 第27週: Unit 22 知っている人たち 第28週: Unit 23 場所 第29週: Unit 24 健康 第30週: 練習問題と補充問題 学年末試験				
教科書	Tactics for Listening (Oxford)				
参考書	英和辞書 和英辞書				
関連教科	英語総合II 基礎英語演習II				
基礎知識	英語総合I 基礎英語演習I 基礎英語会話I				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験70% 宿題10% 演習・小テスト10% その他10%		
	定期試験	70%	そのほか、コミュニケーションにおいて重要な積極的かつ自発的な授業参加意欲、授業中の発言、発話と出席とする。		
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 マーティン・バーナード, 片寄メーガン	
授業科目名	基礎英語会話III		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態	演習	単位種別	
授業概要	英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)の習得と向上を目指す。特に会話に重点をおいてコミュニケーション能力の育成をはかる。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1.英語の苦手意識を払拭して、英語が意思伝達の道具として楽しいものであると思うことができる 2.自己の意思を英語で伝える能力を養い、自分が英語を話せることを個人個人が確信できる				
授業の進め方とアドバイス	テキストを使いながら、いろいろなテーマについて、英語で発表したり、他の学生の発表を聞いて意見を述べたりして、英語での口頭表現の練習を行う。小テストも実施する。会話の授業なので、積極的な授業参加が望まれる。				
授業内容とスケジュール	第1週 : ガイダンス(授業の進め方と授業概要について) 第2週 : 英語の語彙について尋ねる。 第3週 : 興味のあるものについて話したり尋ねたりする 第4週 : 解らない時に、聞き返したり、ゆっくり言ってもらおう 第5週 : スポーツや運動について話したり尋ねたりする 第6週 : 暇なときに何をするかを話す 第7週 : 性格について話したり尋ねたりする 第8週 : 人が言っていることが本当か、そうでないかを言う 第9週 : 人の格好について話したり尋ねたりする 第10週 : 天気や季節について話す 第11週 : 意見を言ったり求めたりする 第12週 : 何をしたいかについて話す 第13週 : 訪ねてみたい場所について話す 第14週 : 家庭について尋ねたり答えたりする 第15週 : 復習 前期期末試験 第16週 : 要求に対して賛成する 第17週 : 家事について話す 第18週 : 家について説明する 第19週 : 指示を与えたり、指示に従ったりする 第20週 : 自分の気分を述べたり、人によるしく伝える 第21週 : 健康に気をつけていることを話したり尋ねたりする 第22週 : ストレスをうまく扱う方法を議論する 第23週 : 自分の好きなテレビ番組について話をする 第24週 : 人の意見に賛成したり反対したりする 第25週 : 将来計画について説明する 第26週 : 人気のあるテレビ番組について意見を述べる 第27週 : 製品の説明をしたり比べたりする 第28週 : バーゲンについて話す 第29週 : 服が似合うかどうかについて話す 第30週 : まとめ 学年末試験				
教科書	Four Corners (Cambridge University Press)				
参考書					
関連教科基礎知識	1・2年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		100%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 永田俊樹	
授業科目名	日本語教育I(国語Ⅲ)		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	日本初級コースを終了した留学生を対象とし、さらに日本語能力を発展させることを目指す。ある程度の読解はできるが、話す能力はまだ低い学生が多いので、できる限り発言の機会を与え日本語に慣れてもらう。従って、教授法は日本語を日本語で教えるダイレクトメソッドを採用する。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1)日本語能力試験N2の合格を目指すこと 2)日本語能力試験N1を受験する実力を培うこと 3)ニュースや新聞の日本語が理解出来ること 4)日本人と意見交換ができるだけの日本語能力をつけること				
授業の進め方とアドバイス	毎回問題集を中心にいろいろな日本語を扱い、問題演習と共に、口頭で自分の意見を効果的かつ論理的に述べる練習をする。英語での解説はできるだけ少なくし、原則として日本語を使って教授する。				
授業内容とスケジュール	第1週:漢字読み方 1 第2週:漢字読み方 2 第3週:漢字読み方 3 第4週:漢字書き方 1 第5週:漢字書き方 2 第6週:漢字書き方 3 第7週:語彙適語の選択 1 第8週:語彙適語の選択 2 第9週:前期中間試験 第10週:語彙単語の意味 1 第11週:語彙単語の意味 2 第12週:語彙単語の意味 3 第13週:読解同義文 1 第14週:読解同義文 2 第15週:読解同義文 3 前期期末試験 第16週:読解要旨の把握 1 第17週:読解要旨の把握 2 第18週:読解要旨の把握 3 第19週:読解長文の総合問題 1 第20週:読解長文の総合問題 2 第21週:読解長文の総合問題 3 第22週:読解長文の総合問題 4 第23週:読解後期中間試験 第24週:文法穴埋め問題 1 第25週:文法穴埋め問題 2 第26週:文法文章完成問題 1 第27週:文法文章完成問題 2 第28週:総合演習 1 第29週:総合演習 2 第30週:総合演習 3 学年末試験				
教科書	毎回プリントを配付				
参考書	日本語能力試験問題集				
関連教科	英語 日本語 社会 数学 物理 化学				
基礎知識	日本語基礎文法				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		50%		
	レポート				
	演習・小テスト		50%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 笹間政典	
授業科目名	日本事情(地理)		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	日本語の基礎を習得した留学生を対象に、読解および作文に重点を置いて、さらに日本語能力を発展させることを目指す。教授法は原則として日本語を日本語で教える直接法とし、類似表現や言い換えの表現などにも慣れるようにする。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 公式な文章と、くだけた会話調の文章の違いがわかるようになること。 2) 簡単なニュースや新聞の日本語が理解できるようになること。 3) 漢字混じりの簡単な日本語がフォーマルな文体で書けるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	新聞記事や技術系の一般向け書籍、中級程度の日本語テキストを用いて文章の読解を行うとともに、適宜宿題として日本語作文の課題を与え、添削、フィードバックすることにより作文能力を高める。				
授業内容とスケジュール	第1週: 読解 1 文章の細部にわたる正確な理解 第2週: 読解 2 文章の細部にわたる正確な理解 第3週: 読解 3 文章の細部にわたる正確な理解 第4週: 読解 4 文章の細部にわたる正確な理解 第5週: 読解 5 文章の細部にわたる正確な理解 第6週: 読解 6 文章の細部にわたる正確な理解 第7週: 読解 7 文章の細部にわたる正確な理解 第8週: 読解 8 前期中間試験 第9週: 読解 9 文章の細部にわたる正確な理解 第10週: 読解10 文章の細部にわたる正確な理解 第11週: 読解11 要旨の把握と内容についての討論 第12週: 読解12 要旨の把握と内容についての討論 第13週: 読解13 要旨の把握と内容についての討論 第14週: 読解14 要旨の把握と内容についての討論 第15週: 読解15 要旨の把握と内容についての討論 前期末試験 第16週: 読解16 文章の細部にわたる正確な理解 第17週: 読解17 文章の細部にわたる正確な理解 第18週: 読解18 文章の細部にわたる正確な理解 第19週: 読解19 文章の細部にわたる正確な理解 第20週: 読解20 文章の細部にわたる正確な理解 第21週: 読解21 文章の細部にわたる正確な理解 第22週: 読解22 文章の細部にわたる正確な理解 第23週: 読解23 後期中間試験 第24週: 読解24 文章の細部にわたる正確な理解 第25週: 読解25 文章の細部にわたる正確な理解 第26週: 読解26 要旨の把握と内容についての討論 第27週: 読解27 要旨の把握と内容についての討論 第28週: 読解28 要旨の把握と内容についての討論 第29週: 読解29 要旨の把握と内容についての討論 第30週: 読解30 要旨の把握と内容についての討論 学年末試験				
教科書	毎回プリントを配布				
参考書	「日本語能力試験2級文法問題集」「科学技術の日本語」「中級から学ぶ日本語」				
関連教科	日本語教育I(国語III)				
基礎知識	日本語文法				
成績の評価方法	総合評価割合			理解度、宿題の提出率、正解率、発言などを総合的に評価する	
	定期試験		70%		
	レポート		30%		
	演習・小テスト				
	その他				
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 中永廣樹	
授業科目名	文学I		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	この講義は、本校の教育理念に基づく「養成すべき人材像」の中の「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材」を養成するとともに、「学習・教育目標」の中の「社会とかかわるためのコミュニケーション力」を身に付けることを目指す。具体的には、わが国の古典の代表的な随筆作品である「徒然草」を味読することにより、作者兼好の人生観、処世訓、自然観などを学ぶ。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:(A-2) 建築PRG:(D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG(a) 建築PRG(a)	
到達目標	優れた古典作品を鑑賞することで、古典の言語を通して言語感覚を磨き、表現力を身につけるとともに、古人の生き方・感じ方を知り、現代のわれわれの生き方の参考にするなどして、幅広い考え方や教養を身につける。				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・古語辞典、文法等に関する配布資料を持参すること。 ・古語辞典、文法等に関する配布資料を持参すること。 ・授業では教科書以外にも、適宜、プリント教材等を用いたり、現代の文学作品の朗読を行ったりする。 ・質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、徒然草の概説、徒然草序段(プリント教材) 第2週: 徒然草 89段「奥山に猫またといふもの」 第3週: 51段「亀山殿の御池に」 第4週: 141段「悲田院の堯蓮上人は」 第5週: プリント教材(言葉の学習1) 第6週: 215段「平宣時朝臣、老の後」 第7週: 32段「九月二十日のころ」 第8週: 前期中間試験 第9週: 徒然草 10段「家居の、つきづきしく」 第10週: 7段「あだし野の露」 第11週: 150段「能をつかんとする人」 第12週: 85段「人の心すなほならねば」 第13週: プリント教材(言葉の学習2) 第14週: 140段「身死して財残ることは」、120段「唐のものは」 第15週: 71段「名を聞くより」 前期期末試験				
教科書	「要抄 徒然草」(日栄社)				
参考書	古語辞典(電子辞書でも可)				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	国語、倫理、日本史など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験と小テストにより100点満点の点数評価をする。		
	定期試験		90%		
	レポート				
	演習・小テスト		10%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 渡邊 健	
授業科目名	文学II		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	『源氏物語』について、巻ごとにとりあげ、その豊かな世界を味わう。また、巻ごとに和歌を含む場面を取り上げて調べ発表したり、短歌の創作・批評を行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG: (A-2) 建築PRG: (D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG: (a) 建築PRG: (a)	
到達目標	『源氏物語』を学ぶことを通して、言語感覚を磨き、わが国の言語文化と伝統に対する理解と関心を深め、心情を豊かにすることができる。また、特定のテーマについて調べ考えて発表する能力や、詩歌を創作したり鑑賞・批評したりする能力の向上を図ることができる。				
授業の進め方とアドバイス	第1・2週で概説を行い、第3・4週で班ごとに調べ学習を行う。第5週以降は、順次、班によるプレゼン発表を行うとともに、巻ごとに作品を解説する講義も行う。学生たちに短歌の創作に取り組みせ、鑑賞・批評してもらうことも考えている。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス1 『源氏物語』概説 第2週: 授業のガイダンス2 作者と作品について 第3週: 『源氏物語』についてのグループ調べ学習 第4週: 『源氏物語』についてのグループ調べ学習 第5週: 「桐壺」巻について 第6週: 「帚木」巻について 第7週: 「空蟬」巻について 第8週: 前期中間試験 第9週: 「夕顔」巻について 第10週: 「若紫」巻について 第11週: 「末摘花」巻について 第12週: 「紅葉賀」巻について 第13週: 「花宴」巻について 第14週: 「源氏物語絵巻」について 第15週: 短歌の創作と批評 前期末試験				
教科書	プリント				
参考書	国語辞典(電子辞書でも可)				
関連教科	国語、社会など				
基礎知識	文学史、日本史、古典文法など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、小テスト、発表(プレゼン)等により、100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	70%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	毎時、辞書を持参のこと。				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 中永廣樹	
授業科目名	文学Ⅲ		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	この講義は、本校の教育理念に基づく「養成すべき人材像」の中の「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材」を養成するとともに、「学習・教育目標」の中の「社会とかがわるためのコミュニケーション力」を身に付けることを目指す。具体的には、我が国の古典の代表的な随筆作品である「徒然草」を味読することにより、作者兼好の人生観、処世訓、自然観などを学ぶ。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:(A-2) 建築PRG:(D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG(a) 建築PRG(a)	
到達目標	優れた古典作品を鑑賞することで、古典の言語を通して言語感覚を磨き、表現力を身につけるとともに、古人の生き方・感じ方を知り、現代のわれわれの生き方の参考にするなどして、幅広い考え方や教養を身につける。				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・古語辞典、文法等に関する配布資料を持参すること。 ・授業では教科書以外にも、適宜、プリント教材等を用いたり、現代の文学作品の朗読を行ったりする。 ・質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、徒然草の概説、徒然草序段(プリント教材) 第2週: 徒然草 50段「応長のころ、伊勢の国より」 第3週: 53段「これも仁和寺の法師」 第4週: 184段「相模守時頼の母は」 第5週: プrint教材(言葉の学習1) 第6週: 43段「春の暮つかた」 第7週: 11段「神無月のころ」、55段「家のつくりやうは」 第8週: 後期中間試験 第9週: 徒然草 30段「人の亡きあとばかり」 第10週: 189段「けふはその事をなさんと」 第11週: 155段「世に徒はん人は」 第12週: プrint教材(言葉の学習2) 第13週: 167段「一道にたづさはる人」 第14週: 56段「久しく隔たりて」 第15週: 73段「世に語り伝ふること」 後期期末試験				
教科書	「要抄 徒然草」(日栄社)				
参考書	古語辞典(電子辞書)				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	国語、倫理、日本史など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験と小テストにより100点満点の点数評価をする。		
	定期試験		90%		
	レポート				
	演習・小テスト		10%		
	その他				
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 渡邊 健	
授業科目名	文学IV		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	鎌倉時代に成立した『百人一首』について学び、日本人の季節感や美意識を育んだ古典和歌の豊かな世界を味わう。また、興味のある歌人を取り上げて調べ発表したり、和歌の創作や競技かるたにも取り組む。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG: (A-2) 建築PRG: (D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG: (a) 建築PRG: (a)	
到達目標	古典和歌を学ぶことを通して、言語感覚を磨き、わが国の言語文化と伝統に対する理解と関心を深め、心情を豊かにすることができる。また、特定のテーマについて調べ考えて発表する能力や、詩歌を創作したり鑑賞・批評したりする能力の向上を図ることができる。				
授業の進め方とアドバイス	第1週で概説を行い、第2週で班ごとに歌人の調べ学習を行う。第3週以降は、順次、班によるプレゼン発表を行うとともに、テーマごとに和歌を解説する講義も行う。学生たちに和歌の創作に取り組みせたり、競技かるたに取り組んでもらうことも考えている。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、百人一首概説 第2週: 百人一首の歌人についての調べ学習 第3週: 百人一首の歌人とその和歌について1 第4週: 百人一首の歌人とその和歌について2 第5週: 百人一首の歌人とその和歌について3 第6週: 百人一首の歌人とその和歌について4 第7週: 百人一首の歌人とその和歌について5 第8週: 後期中間試験 第9週: 百人一首の和歌の表現についての調べ学習 第10週: 百人一首の和歌の表現について1 第11週: 百人一首の和歌の表現について2 第12週: 百人一首の和歌の表現について3 第13週: 百人一首の和歌の表現について4 第14週: 百人一首の和歌の表現について5 第15週: 和歌の創作と鑑賞 学年末考査				
教科書	『原色小倉百人一首』(文英堂)、プリント				
参考書	国語辞典(電子辞書でも可)				
関連教科	国語、社会など				
基礎知識	文学史、日本史、古典文法など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、小テスト、発表(プレゼン)等により、100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	60%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				
備考	毎時、辞書を持参のこと。				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 原田桃子	
授業科目名	社会科学I(前期)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち「社会と自らを高める発展力」を養う科目である。 具体的には、多民族・多文化社会として成り立つイギリス社会が抱える問題を歴史的な文脈から考察する。				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG:a 建築PRG:a	
到達目標	(1)今日にいたる世界の発展を人の移動という側面から把握できる。 (2)多民族国家が抱える諸問題の考察を通して、歴史的な見方、考え方を身につける。				
授業の進め方と アドバイス	講義形式で進め、適宜プリントを配布する。質問がある場合は、休憩時間、放課後に随時受け付ける。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 (1)授業内容を理解するため、復習を行う。 (2)定期試験の準備を行う。				
授業内容と スケジュール	第1週: 授業ガイダンス 第2週: 現代社会の「人の移動」を巡る諸問題 第3週: 多民族・多文化社会イギリス 第4週: イギリス帝国の発展と「人の移動」 第5週: イギリス帝国の変容と帝国内の国籍の議論 第6週: 移民制限法の制定(1) 第7週: 移民制限法の制定(2) 第8週: 中間試験 第9週: 人種関係法の制定 第10週: 移民の流入と住宅 第11週: 移民の流入と教育 第12週: 移民の流入とメディア 第13週: ヨーロッパ統合とイギリス 第14週: 「イギリス人」とは誰か？ 第15週: まとめ 期末試験				
教科書	プリント配布				
参考書					
関連教科					
基礎知識	中学の「歴史」				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポートによって評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	40%			
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 原田桃子	
授業科目名	社会科学I(後期)		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち「社会と自らを高める発展力」を養う科目である。 具体的には、多民族・多文化社会として成り立つイギリス社会が抱える問題を歴史的な文脈から考察する。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:a 建築PRG:a	
到達目標	(1)今日にいたる世界の発展を人の移動という側面から把握できる。 (2)多民族国家が抱える諸問題の考察を通して、歴史的な見方、考え方を身につける。				
授業の進め方とアドバイス	講義形式で進め、適宜プリントを配布する。質問がある場合は、休憩時間、放課後に随時受け付ける。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 (1)授業内容を理解するため、復習を行う。 (2)定期試験の準備を行う。				
授業内容とスケジュール	第1週:授業ガイダンス 第2週:現代社会の「人の移動」を巡る諸問題 第3週:多民族・多文化社会イギリス 第4週:イギリス帝国の発展と「人の移動」 第5週:イギリス帝国の変容と国内の国籍の議論 第6週:移民制限法の制定(1) 第7週:移民制限法の制定(2) 第8週:中間試験 第9週:人種関係法の制定 第10週:移民の流入と住宅 第11週:移民の流入と教育 第12週:移民の流入とメディア 第13週:ヨーロッパ統合とイギリス 第14週:「イギリス人」とは誰か? 第15週:まとめ 期末試験				
教科書	プリント配布				
参考書					
関連教科					
基礎知識	中学の「歴史」				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポートによって評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	40%			
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 布施圭司	
授業科目名	社会科学II(前期)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	現代人の生命観・自然観に関する文献を読み進めながら、現代社会が直面する問題を考察する。社会が直面する諸問題の背景や課題について知見を獲得し、社会・文化・人間について幅広い見方を身につけることを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)		
到達目標	生命や自然をめぐる重要な問題を簡単に説明できる。 現代人の生命観・自然観を顧慮した考え方を形成できる。				
授業の進め方とアドバイス	前半は、教科書を読み進めながら、諸問題について考察する。レポートを課し、後半は学生によるレポートのプレゼンテーションを中心とする。日頃は新聞などで世界の出来事に注意を払うことが望ましい。毎火曜日の16-17時をオフィスアワーとする。また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。レポートの作成／プレゼンテーションの準備／教科書の授業で扱わない部分の学習				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス、終末医療 第2週: SOLとQOL 第3週: 子どもの医療 第4週: 判断能力(コンピテンス)評価 第5週: いのちの優先順位 第6週: 学生発表1 第7週: 学生発表2 第8週: 中間試験 第9週: 学生発表3 第10週: 学生発表4 第11週: 学生発表5 第12週: 学生発表6 第13週: 学生発表7 第14週: 補足説明 第15週: 全体のまとめ				
教科書	小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』(筑摩書房)				
参考書					
関連教科	歴史I・II、現代社会、地理、社会科学I・III				
基礎知識	低学年の社会科学の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、その他(授業中の発表)により総合評価する。		
	定期試験	40%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他	30%			
備考		100%			

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 布施圭司	
授業科目名	社会科学II(後期)		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	現代人の生命観・自然観に関する文献を読み進めながら、現代社会が直面する問題を考察する。社会が直面する諸問題の背景や課題について知見を獲得し、社会・文化・人間について幅広い見方を身につけることを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)		
到達目標	生命や自然をめぐる重要な問題を簡単に説明できる。 現代人の生命観・自然観を顧慮した考え方を形成できる。				
授業の進め方とアドバイス	前半は、教科書を読み進めながら、諸問題について考察する。レポートを課し、後半は学生によるレポートのプレゼンテーションを中心とする。日頃は新聞などで世界の出来事に注意を払うことが望ましい。毎火曜日の16-17時をオフィスアワーとする。また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 レポートの作成／プレゼンテーションの準備／教科書の授業で扱わない部分の学習				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス、終末医療 第2週: SOLとQOL 第3週: 子どもの医療 第4週: 判断能力(コンピテンス)評価 第5週: いのちの優先順位 第6週: 学生発表1 第7週: 学生発表2 第8週: 中間試験 第9週: 学生発表3 第10週: 学生発表4 第11週: 学生発表5 第12週: 学生発表6 第13週: 学生発表7 第14週: 補足説明 第15週: 全体のまとめ				
教科書	小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』(筑摩書房)				
参考書					
関連教科	歴史I・II、現代社会、地理、社会科学I・III				
基礎知識	低学年の社会科学の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、その他(授業中の発表)により総合評価する。		
	定期試験	40%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他	30%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 加藤博和	
授業科目名	社会科学Ⅲ(前期)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	本授業では、生活に必要な経済・法律について学習し、これまで学習してきた社会科の内容を基にして、幅広い教養と専門的な知識の修得を目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	生活に必要な経済・法律に関する専門的な知識を身に付けること。 社会に関するより広く高度な知識を学習し、教養を深めること。				
授業の進め方とアドバイス	講師として実務家や専門家を招いた、生活に必要な経済・法律についての講義であり、積極的な受講態度が求められる。 また、学習を深めるため、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 ●各講義に即した課題(レポート)の作成				
授業内容とスケジュール	第1週: 鳥取県内の消費者被害の現状 第2週: 法律について 第3週: 特定商取引法とクーリング・オフ(1) 第4週: 同上(2) 第5週: 演習 第6週: 消費者信用と多重債務 第7週: 金融・証券1 第8週: 金融・証券2 第9週: 中間試験 第10週: 金融・証券3 第11週: 食品 第12週: サイバー犯罪 第13週: 税金 第14週: 選挙 第15週: 新聞の読み方 期末試験				
教科書	該当なし				
参考書	各講師によるレジュメ・資料等を配付する。				
関連教科	歴史、現代社会、地理など				
基礎知識	1～3年で学習した社会科の内容など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験及びレポートに基づいて成績を評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 加藤博和	
授業科目名	社会科学Ⅲ(後期)		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	<p>本授業では、生活に必要な経済・法律について学習し、これまで学習してきた社会科の内容を基にして、幅広い教養と専門的な知識の修得を目指す。</p> <p>本授業は、鳥取県生活環境部くらしの安心局消費生活センターと本校との連携講座として開設されるもので、県民の方にも開放されている(県民の方と一緒に受講する)。</p>				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	<p>生活に必要な経済・法律に関する専門的な知識を身に付けること。</p> <p>社会に関するより広く高度な知識を学習し、教養を深めること。</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>講師として実務家や専門家を招いた、生活に必要な経済・法律についての講義であり、積極的な受講態度が求められる。</p> <p>また、学習を深めるため、次のような自学自習を60時間以上行うこと。</p> <p>●各講義に即した課題(レポート)の作成</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 鳥取県内の消費者被害の現状</p> <p>第2週: 法律について</p> <p>第3週: 特定商取引法とクーリング・オフ(1)</p> <p>第4週: 同上(2)</p> <p>第5週: 演習</p> <p>第6週: 消費者信用と多重債務</p> <p>第7週: 金融・証券1</p> <p>第8週: 金融・証券2</p> <p>第9週: 中間試験</p> <p>第10週: 金融・証券3</p> <p>第11週: 食品</p> <p>第12週: サイバー犯罪</p> <p>第13週: 税金</p> <p>第14週: 選挙</p> <p>第15週: 新聞の読み方</p> <p>期末試験</p>				
教科書	各講師による講義資料を収録した冊子を教科書として第1回講義時に配付する(毎回の講義に持参するとともに、自学自習等に活用すること)。				
参考書	授業中に指示。				
関連教科	歴史、現代社会、地理、社会科学1、2など。				
基礎知識	1～3年で学習した社会科の内容など。				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験及びレポートに基づいて成績を評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	森田典幸	
授業科目名	テクニカルイングリッシュ		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	1
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	理工系学生に必要とされる英語の基礎力を養うために、工業英語に特化した例文をもとに文法や構文に関する問題演習を行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム (E-1) 建築学プログラム (E-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム (f) 建築学プログラム (f)	
到達目標	1.工業英語に関する基本的な語彙を習得する。 2.工業英語の読み書きに必要とされる文法や構文を習得する。				
授業の進め方とアドバイス	サーバー上の学習ソフトを利用し、時間ごとに指示された学習ユニットをe-ラーニングにより各自がCALL教室の端末を使用し学習する。質問や理解しにくい箇所があれば、先生呼出しボタンを用いアドバイスを求める。				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス 第2週: be動詞 第3週: 一般動詞(1) 第4週: 一般動詞(2) 第5週: 進行形 第6週: 未来形 第7週: 受動態 第8週: 前期中間試験 第9週: 不定詞(1) 第10週: 動名詞(1) 第11週: 不定詞(2) 第12週: 動名詞(2) 第13週: 分詞 第14週: 助動詞 第15週: 名詞・冠詞 前期末試験 第16週: 代名詞 第17週: itの特別用法 第18週: 形容詞・副詞 第19週: 比較 第20週: 接続詞(1) 第21週: 接続詞(2) 第22週: 前置詞 第23週: 後期中間試験 第24週: 命令文・感嘆文 第25週: 疑問文 第26週: 5文型 第27週: 関係代名詞 第28週: 関係副詞 第29週: 仮定法 第30週: まとめ				
教科書	ベーシック工業英語 (CHleru e-learning教材)				
参考書					
関連教科	英語総合・英語基礎演習・英語総合演習				
基礎知識	化学・物理・数学などの理科系科目と専門科目の基礎知識				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		75%		
	レポート				
	演習・小テスト		25%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	鈴木章子	
授業科目名	アカデミックライティング		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	1
区分	選択	授業の形態	演習	単位種別	履修
授業概要	3年までで学んだ英語の知識を生かし、まとまった文量のパラグラフを論理的に書けるようになることを目標とする。授業ではライティング・リーディング・スピーキング・リスニングのすべての力を使う。ピア・エディティングも行うので、クラスメートと協力しながらライティングの力を伸ばすことを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(E-1) 建築学プログラム(E-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(f) 建築学プログラム(f)	
到達目標	1) Topic sentence, supporting details, concluding sentenceのそろったパラグラフが書ける。 2) 教科書で扱った文法の知識を適切に使って英文が書ける。 3) 教科書に載っている読み物の内容を理解できる。				
授業の進め方とアドバイス	授業ではライティングの課題が出される。そのライティングを授業内で使用するため、家庭学習のできる学生の受講を期待する。また、使用する教科書が英語で書かれているため、内容を学ぶために英語を読むことに慣れてほしい。授業前に教科書を読んでくることを推奨する。授業ではペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションを行うので、クラスメートと協力して学んでほしい。				
授業内容とスケジュール	<p>前期</p> <p>第1週 ガイダンス、Introduction</p> <p>第2週 Chapter 1: The Topic Sentence</p> <p>第3週 Chapter 1: The Topic Sentence</p> <p>第4週 Write Assignment 1 in class</p> <p>第5週 Assignment 1 due, Chapter 2: Supporting Sentences</p> <p>第6週 Chapter 2: Supporting Sentences</p> <p>第7週 Assignment 2 due, Chapter 3: The Concluding Sentence</p> <p>第8週 Chapter 3: The Concluding Sentence</p> <p>第9週 Assignment 3 peer review, Assignment 3 due</p> <p>第10週 Chapter 4: Descriptive Paragraphs</p> <p>第11週 Chapter 4: Descriptive Paragraphs</p> <p>第12週 Assignment 4 due, Presentation Preparation</p> <p>第13週 Presentation Preparation</p> <p>第14週 Paper Presentation 1</p> <p>第15週 Paper Presentation 2</p> <p>後期</p> <p>第16週 Chapter 5: Narrative Paragraphs</p> <p>第17週 Chapter 5: Narrative Paragraphs</p> <p>第18週 Assignment 5 due, Chapter 6: Expository Paragraphs</p> <p>第19週 Chapter 6: Expository Paragraphs</p> <p>第20週 Assignment 6 due, Chapter 7: Unity</p> <p>第21週 Chapter 7: Unity</p> <p>第22週 Assignment 7 due, Chapter 8: Coherence</p> <p>第23週 Chapter 8: Coherence</p> <p>第24週 Assignment 8 due, Chapter 9: Cohesion</p> <p>第25週 Chapter 9: Cohesion</p> <p>第26週 Assignment 9 due, Review of Chapter 1~Chapter 9</p> <p>第27週 Presentation Preparation</p> <p>第28週 Presentation Preparation</p> <p>第29週 Paper presentation 1</p> <p>第30週 Paper Presentation 2</p>				
教科書	Writing to Communicate 1 (Pearson Longman)				
参考書					
関連教科	英語総合Ⅲ、基礎英語演習Ⅲ、英会話Ⅲ、英語総合演習				
基礎知識	高専で学んできた英語の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		Writing Assignments 70%		
	定期試験		In-class paper presentations, quizzes 30%		
	レポート	70%			
	演習・小テスト	30%			
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	中島美智子	
授業科目名	ベーシックイングリッシュ		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	1
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	英語の基礎力をつけることに主眼をおく。より高度な英語力を身につけて、使えるような実践的な英語運用力を習得するためには、まず「土台」を堅固なものにする必要がある。本講義では、自学学習を取り混ぜながら、語彙力、文法力、読解力、リスニング力の学習に焦点をあてていく。				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-1)	関連するJABEE学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)		
到達目標	1. 英文法の基礎的な知識を理解することができる。 2. 理解した英文法項目を表現の中で使用することができる。 3. 日常生活を送る上で、英語で簡単なコミュニケーションができる。				
授業の進め方とアドバイス	本授業では、予習を前提とし、積極的な授業への参加を求める。復習のために、前時の学習内容の定着を小テストによって確かめる。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス(授業の進め方) 第2週: Lesson 1 第3週: Lesson 2 第4週: Lesson 3 第5週: Lesson 4 第6週: Lesson 5 第7週: Lesson 6 第8週: Lesson 7 第9週: 前期中間試験 第10週: Lesson 8 第11週: Lesson 9 第12週: Lesson 10 第13週: Lesson 11 第14週: Lesson 12 第15週: Lesson 13 前期期末試験 第16週: Lesson 14 第17週: Lesson 15 第18週: Lesson 16 第19週: Lesson 17 第20週: Lesson 18 第21週: Lesson 19 第22週: Lesson 20 第23週: 後期中間試験 第24週: Lesson 21 第25週: Lesson 22 第26週: Lesson 23 第27週: Lesson 24 第28週: 総復習 第29週: 総復習 第30週: 総復習 学年末試験				
教科書	Forerunner to Power-Up English (南雲堂)				
参考書					
関連教科	英語総合、基礎英語演習、英会話、英語総合演習				
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		70%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	青砥正彦	
授業科目名	多読・多聴英語		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	1
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	実際のCNNのニュースを題材に、様々な分野の英語に触れる。ウェブで実際のニュースを見たり、聞いたりして、ニュースで使われている表現を学習し、内容を理解する。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム (E-1) 建築学プログラム (E-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム (f) 建築学プログラム (f)	
到達目標					
授業の進め方とアドバイス	できるだけ多くの英文に触れて英語のインプットを増やします。図書館にある多読図書も活用しましょう。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス(授業の進め方) 第2週: Lesson 1 第3週: Lesson 1 第4週: Lesson 2 第5週: Lesson 2 第6週: Lesson 3 第7週: Lesson 3 第8週: 前期の復習 第9週: 前期中間試験 第10週: Lesson 4 第11週: Lesson 4 第12週: Lesson 5 第13週: Lesson 5 第14週: Lesson 6 第15週: Lesson 6 前期期末試験 第16週: Lesson 7 第17週: Lesson 7 第18週: Lesson 8 第19週: Lesson 8 第20週: Lesson 9 第21週: Lesson 9 第22週: 復習 第23週: 後期中間試験 第24週: Lesson 10 第25週: Lesson 10 第26週: Lesson 11 第27週: Lesson 11 第28週: Lesson 12 第29週: Lesson 12 第30週: 総復習 学年末試験				
教科書	CNN Student News 5				
参考書					
関連教科 基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		60%		
	レポート		20%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		10%		
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	酒井康宏	
授業科目名	プレゼン英語		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	1
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	授業は週1回の45分なので、途中で作業が切れることは当たり前である。次回の授業は、必ず、前回行った作業内容を十分把握し、てきぱきとこなせるようにしたい。前期は3人でチームを組んで、適当なテーマを決定してプレゼンする。後期は適当なテーマを1人で決定してプレゼンする。試験はペーパー試験は行わず、プレゼンを実際に行ってもらい、評価する。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:E-1 建築PRG:E-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:f 建築PGR:f	
到達目標	英語でプレゼンすることにより、人前で自信を持ってスピーチやプレゼン出来るようになることを目標とし、質疑に対しても瞬時に答えられることを目標とする。				
授業の進め方とアドバイス	授業は週1回の45分なので、途中で作業が切れることは当たり前の話であり、次回の授業時において前回行った作業がどこまでであるかきちんと把握できていないといけません。そのため、必ず、毎回自分の作業の進行状況が分かるようにメモを取るなど工夫をしてください。テーマを決めたら、そのテーマに肉付けをしていく作業が必要になります。SNSの使用はある程度認めますので、しっかり情報を検索してください。				
授業内容とスケジュール	第1週:オリエンテーション 第2週:声の通し方(1) 第3週:声の通し方(2) 第4週:英語の早口言葉と人前であがらないためには...(1) 第5週:英語の早口言葉と人前であがらないためには...(2) 第6週:テーマの決定(1) 第7週:テーマの決定(2) 第8週:構成の組み立て方(1) 第9週:構成の組み立て方(2) 第10週:プレゼン作業(1) 第11週:プレゼン作業(2) 第12週:プレゼン作業(3) 第13週:プレゼン作業(4) 第14週:プレゼン作業(5) 第15週:前期のまとめと復習 前期期末試験(3人プレゼン試験) 第16週:プレゼンの姿勢 第17週:プレゼンのEye-Contact 第18週:プレゼンのジェスチャー 第19週:プレゼンする位置 第20週:プレゼンの投影 第21週:プレゼンのイントネーション 第22週:プレゼンのフレージング 第23週:プレゼン後の質問対応について(1) 第24週:プレゼン後の質問対応について(2) 第25週:プレゼン作業(1) 第26週:プレゼン作業(2) 第27週:プレゼン作業(3) 第28週:プレゼン作業(4) 第29週:プレゼン作業(5) 第30週:後期のまとめと復習 学年末試験(1人プレゼン試験)				
教科書	『Successful Presentations』(センゲージ・ラーニング)				
参考書	授業中に指示				
関連教科	「基礎英語会話I, II, III」「基礎英語演習I, II, III」				
基礎知識	英語力全般、国語力全般				
成績の評価方法	総合評価割合		その他は出席点で、全体の授業時間より欠席した割合を算出して評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート				
	演習・小テスト	30%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 渡邊 眞子	
授業科目名	ドイツ語I		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	ドイツ語の基礎的な能力を実際的な練習を通し身につけていきます。使用する教材は、「読み書き、聞き、話す」を総合的に学べるように構成されています。使われている表現も、実際にドイツ語圏に旅したり、滞在する時に役立ちます。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(E-1) 建築学プログラム(E-1)	関連するJABEE 学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(f) 建築学プログラム(f)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 綴りと発音の関係を理解し文を正しく音読できるようにする。 基本的な語句を習得し、挨拶、自己紹介、質問、要求の表現ができるようになる。 音声、または文字による質問に対して的確に回答できるようにする。 画像や現実の対象について簡単な叙述ができるようになる。 基本的な文構造を理解し平易な文章の読解、簡単な作文ができるようになる。 				
授業の進め方とアドバイス	授業に参加してもらい、基本的な表現を繰り返し練習します。ドイツという国を様々な角度から紹介していきます。				
授業内容とスケジュール	第1週 授業ガイダンス、ドイツってどんな国 第2週 ドイツの歴史、文化、生活 第3週 アルファベットと基本の発音、つづりの読み方 第4週 挨拶、人称代名詞 第5週 重要動詞、人称変化 第6週 名詞の性別・格 第7週 定冠詞、不定冠詞 第8週 前期中間のまとめ 第9週 不規則動詞 第10週 定動詞の位置 第11週 命令文 第12週 否定 第13週 所有代名詞、指示代名詞 第14週 前期末のまとめ 第15週 前期末の復習 前期末試験 第16週 名詞の格 第17週 疑問詞 第18週 前置詞 第19週 語法の助動詞 第20週 接続詞 第21週 分離動詞、非分離動詞 第22週 後期中間のまとめ 第23週 再帰代名詞、再帰動詞 第24週 過去 第25週 完了形 第26週 未来形 第27週 ドイツ語会話 第28週 ドイツ語会話 第29週 後期のまとめ 第30週 1年間のまとめ 学年末試験				
教科書	はじめてのドイツ語 ナツメ社				
参考書	独和辞典				
関連教科					
基礎知識	言語表現に関する様々な知識				
成績の評価方法	総合評価割合		授業への参加度		
	定期試験	80%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	20%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 奥 千絵	
授業科目名	中国語I		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	<p>この授業で皆さんが身につけようとするのは、中国語の共通語(普通話)といわれてきているものです。本授業は、発音編、基本編、応用編、の3つの部分で成り立っています。週1回の授業でも一年間で無理なく終えることができるように構成しました。</p> <p>発音編は、発音だけの学習ではなく、単語や会話、コラムの中で発音とその表記法が自然と身につくように構成されています。</p> <p>基本編は、「あいさつ」や「月日・曜日・時間の表現」「数字の読み方」など、基本的な会話や言い方を取り上げ、中国語の構成と表現が理解できるようになっています。</p> <p>応用編では、中国の学校、普通の生活の中でさまざまな場面に出会います。そこで、現地の人との会話を通じ、中国語を学びます。</p> <p>(1) 学生のレベルに合わせ、中国語の発音に親しむ。 (2) 正しい発音を身につけてから、中国語での挨拶、曜日の言い方、数字の読み方などを勉強し、表現できるようにします。 (3) 実際、中国に留学し、生活の中で出会うさまざまな場面を出し、その時に使う中国語を学びます。この勉強を通して、学生に中国語に関心を待たせ、中国へ留学に行きたいという意欲をおこさせます。</p>				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-1)	関連するJABEE	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)		
到達目標	中国語の発音に親しみ、簡単な挨拶、及び曜日、数字などを表現できる。				
授業の進め方とアドバイス	<p>予習一次の授業で学習するところを読めるようにしておく 授業中一教科書の文を理解し、読めるようにする 復習一毎回、前回の学習内容を復習し、小テストを行う 普段の挨拶を中国語で行うことができるようになること</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週:オリエンテーション 中国語の方言 普通話の話 第2週:中国語の発音 第3週:子音の発音 第4週:発音編まとめ テスト1 第5週:中国語での簡単な挨拶 第6週:中国の「肯定文」テスト2 第7週:中国語の「否定文」テスト3 第8週:中国語の「疑問文」テスト4 第9週:家族の紹介 第10週:中国語の形容詞 テスト5 第11週:中国語の数字の言い方 テスト6 第12週:中国語の量詞 テスト7 第13週:時間の言い方 第14週:日付の言い方 第15週:前期のまとめ 前期期末試験 第16週:中国料理の食べ方 第17週:中国の乗物の言い方・乗り方 テスト1 第18週:中国の公共施設の言い方 第19週:中国の映画を鑑賞 第20週:映画鑑賞の感想を発表 テスト2 第21週:対になった形容詞 第22週:動作の表し方 テスト3 第23週:中国語の歌 第24週:お金の換算・食堂で注文する言葉 第25週:買い物の言い方・お金の勘定の言葉 テスト4 第26週:中国の地名・名所旧跡 第27週:中国と日本の友好文化交流の活動の紹介 第28週:中国語での手紙の書き方 テスト5 第29週:中国旅行での言葉 第30週:後期のまとめ 学年末試験</p>				
教科書	「ニイハオ!中国語」(金星堂出版)				
参考書	『中国語ジャーナル』(アルク出版) 『漢詩への誘い』(NHKシリーズ社出版) 『中国語で歌おう』(アルク社出版)				
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		100%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 岩田美英	
授業科目名	韓国語I		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	初めて韓国語を勉強する学生が対象とし、教科書を中心にハングルの読み書きのみならず簡単な会話を学習する。また、韓国の文化を研究することで韓国への理解をより一層深める。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム (E-1) 建築学プログラム (E-1)	関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム (f) 建築学プログラム (f)		
到達目標	ハングルの読み書きと簡単な一般会話ができる。				
授業の進め方とアドバイス	韓国語で読み書きのみならず、発音や会話の練習時間をたくさん設けたい。また、韓国の文化に触れながら、皆さんの五感と心で韓国をしっかり感じてもらいたい。				
授業内容とスケジュール	第1週 授業のガイダンス、韓国語の特徴 第2週 第1課 基本母音字と合成母音字(1)、韓国のアニメ(1) 第3週 第2課 基本子音字、日本の都道府県を書く、韓国の祝日 第4週 第3課 合成母音字(2)、カナダラソング 第5週 第3課 平音、激音、濃音の理解、韓国の旗 第6週 第4課 子音と母音の組み合わせ練習、交流協定学校の紹介 第7週 第4課 バッチム、自己紹介、韓国のお茶 第8週 第5課 職業表現、助詞の使い方 第9週 復習 前期中間試験 第10週 第5課 かしこまった表現、韓流&日流 第11週 第6課 あります・ありません、韓国旅行 第12週 第6課 家族の名称、韓国の孝について 第13週 第6課 方向表現、形容詞、韓国の絵本 第14週 復習、韓国の衣、食、住 第15週 復習 前期期末試験 第16週 前期の復習 第17週 第7課 指示語、身体用語、韓国の童謡(1) 第18週 第7課 趣味表現、尊敬語 第19週 第7課 助詞と疑問詞 第20週 第8課 曜日と時間、誕生日ソング 第21週 第8課 します・しましょう、行きます・行きましょう 第22週 第8課 数字(漢数字と固有数字)、電話番号の言い方 第23週 復習 後期中間試験 第24週 第9課 否定表現、韓国の伝統音楽 第25週 第9課 好きです、韓国のアニメ(2) 第26週 第9課 場所表現、韓国の童謡(2) 第27週 第9課 変則用言、韓国の昔話 第28週 会話練習 第29週 復習、韓国の伝統あそび 第30週 復習 後期期末試験				
教科書	『最新チャレンジ!韓国語』(白水社)				
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 山田容子	
授業科目名	ロシア語基礎		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	ロシア語の基本的な仕組みを学び、ロシアでサバイバルしていくために必要と思われる初歩的な表現を学びます。合わせて、ロシア語を公用語としている国々についての理解を深めるため、政治、経済、文化などのトピックスを取り上げます。				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-1)		関連するJABEE学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)	
到達目標	1.ロシア語のアルファベット(キリル文字)を読んで、ブロック体で書けるようになること。後期には、筆記体で書けるようになること。 2.ロシア語の発音のルールをマスターして、相手に通じるアクセント、イントネーションで話せるようになること。 3.文法の基本事項を学び、挨拶、自己紹介、質問、要求などの表現ができるようになること。 指定した教科書「はじめてのロシア語」の37課までを具体的な到達目標とします。 ただし、本授業の目的を「基本的な語句と文法で簡単なコミュニケーションがとれるようになること」としているため、学習の順序が教科書と前後する場合があります。 主に文章の読解に必要とされる以下の文法事項には触れません。 1)副動詞 2)形動詞				
授業の進め方とアドバイス	1.教科書とプリントを併用します。 参考書として辞書を挙げてありますが、授業のために特に用意する必要はありません。 2.「自己紹介」、「買い物」といったトピックごとによく使う表現と必要な文法事項の基本を学んでいきます。 授業中に読んだり、書いたり、質問に答えたりします。積極的に口や体を動かして、授業に参加してください。 3.予習は必要ありません。毎回、宿題を出します。宿題をしながらしっかり復習をしてください。(宿題の提出状況は、成績に反映されます。) 4.学習した事柄をしっかり身につけるため、前期2回、後期2回の小テストを実施します。(このテストの結果は、成績に反映されます。)				
授業内容とスケジュール	第1週 授業のガイダンス アルファベットの読み書き(1)、発音のルールとポイント 第2週 アルファベットの読み書き(2)、ロシア語文法のしくみ(1) 第3週 最も簡単な文(「AはBです」型の文)、ロシア語文法のしくみ(2) 第4週 挨拶とその後の会話(自分のことを話し、相手のことを知る)1 第5週 挨拶とその後の会話(自分のことを話し、相手のことを知る)2 第6週 挨拶とその後の会話(相手をほめよう) 第7週 これまでの復習と小テスト(1) 第8週 買い物1(数詞) 第9週 買い物2 第10週 買い物3 第11週 買い物4 第12週 これまでの復習と小テスト(2) 第13週 レストランでの会話 第14週 許可と禁止の表現 第15週 前期の復習 前期末試験 第16週 筆記体の読み書き、前期の復習 第17週 どこへ?どこで?どこから?どこまで? 第18週 いつ?いつから?いつまで? 第19週 時間と場所を決めて会う1 第20週 時間と場所を決めて会う2 第21週 これまでの復習と小テスト(3) 第22週 道案内に必要な会話 第23週 意外と困る日常会話1 第24週 意外と困る日常会話2 第25週 健康状態についての会話1 第26週 健康状態についての会話2 第27週 これまでの復習と小テスト4 第28週 徹底的に数詞(時刻、年号、月日その他) 第29週 これまでの復習 第30週 演習(買い物、道案内、時間と場所を決めて人と会う、病院へ行く等の課題に挑戦) 学年末試験				
教科書	はじめてのロシア語(ナツメ社)、ロシア語習字ノート(ナウカ出版)				
参考書	1)NHKテキスト 毎日ロシア語(2016年10月から2017年3月放送分)、2)ロシア語辞典 改訂新版 博友社ロシア語辞典 博友社				
関連教科基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	酒井康宏	
授業科目名	ポルトガル語基礎		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	ポルトガル語の基礎を習得するため、基礎的な語彙、文法を習得し、日常会話程度のポルトガル語が聞けて、話せるようにする。				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG:E-1 建築PRG:E-1		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG:f 建築PGR:f	
到達目標	全体目標としてのコミュニケーション能力育成の中で、ポルトガル語の基礎を学ぶことにより、日常会話が可能になる程度のポルトガル語の能力を育成することを目標にする。				
授業の進め方と アドバイス	文法の基本事項を中心に講義を聞き、練習問題を解くことが中心となる。英語の授業と同様に予習をしていくことが望ましい。				
授業内容と スケジュール	第1週:オリエンテーション 第2週:アルファベット・名詞 第3週:不定冠詞・定冠詞 第4週:形容詞 第5週:ser動詞・estar動詞 第6週:進行形の表現 第7週:指示詞 第8週:現在形規則動詞ar-形 第9週:現在形規則動詞er-形 第10週:現在形規則動詞ir-形 第11週:ter / haver動詞 第12週:所有詞 第13週:疑問詞 第14週:不規則動詞(ar-, er-, ir-) 第15週:前期のまとめと復習 前期期末試験 第16週:完全過去形(1) 第17週:完全過去形(2) 第18週:直接目的語の代名詞 第19週:間接目的語の代名詞 第20週:直接目的語と間接目的語の代名詞の縮合形とまとめ 第21週:再帰代名詞 第22週:tantoについて 第23週:比較級 第24週:最上級 第25週:不完全過去 第26週:未来形 第27週:接続法現在 / 命令形 第28週:関係詞 第29週:ポルトガルとブラジルの文化(料理、音楽、スポーツ等) 第30週:ポルトガル語と他のロマンス系言語の比較:同系の言語を学習するために 学年末試験				
教科書	『しっかり学ぶポルトガル語』(ベレ出版)				
参考書	授業中に指示				
関連教科	「基礎英語演習I, II, III」、社会科一般				
基礎知識	「基礎英語演習」を始めとする英語の文法知識があると助かります。				
成績の評価方法	総合評価割合		その他10%は出席点で、全体授業数から欠席した割合を算出して評価する。		
	定期試験	80%			
	レポート				
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	森田典幸	
授業科目名	実用工業英語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	この講義は技術者としての基礎力・コミュニケーション力を養う科目である。理工系の学生に必要とされる科学技術英語に関する基本的な語彙及び構文を習得し、科学技術英語に慣れ親しむための入門的能力を養う。				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-2)		関連するJABEE学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)	
到達目標	1. 科学技術全領域に関する基本的な語彙を習得すること 2. 科学技術英語で多用される構文の習熟に努めること 3. 明確で簡潔な文体で表現する能力をたかめる 4. 仕様書、科学技術論文などを読んだり作成したりするのに必要な基本的な知識を習得すること				
授業の進め方とアドバイス	内容別に教材化されているテキストを演習形式で進める。各設問に対して、事前に自分で解答を準備し授業で確認していくことを心がけてほしい。毎回理工系の学生に必要と思われる語彙のテストを行い、語彙力の増強に努める。質問等は授業の前後かオフィスアワーに研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス(授業の進め方) 第2週: Lesson 1 Shapes(平面図と立体図) 第3週: Lesson 2 Properties I(物質の特性と状態の変化) § 1 第4週: Lesson 2 § 2reading 1(元素・化合物・混合物) 第5週: Lesson 3 Location(平面上の位置、立体的な位置) § 1 第6週: Lesson 3 Location(平面上の位置、立体的な位置) § 2 第7週: Lesson 4 Properties II(部分の名前とかたち) § 1 第8週: Lesson 4 § 2reading 2(経度と緯度) 第9週: 前期中間試験 第10週: Lesson 5 Structure I(部分と全体、各部分のつながり) § 1 第11週: Lesson 5 Structure I(部分と全体、各部分のつながり) § 2 第12週: Lesson 6 Structure II(材料とその構成要素) § 1 第13週: Lesson 6 § 2reading 3(地球の構造) 第14週: Lesson 7 Measurement I(どのようにして図形の大きさを測るか) § 1 第15週: Lesson 7 § 2reading 4(測定の基準) 前期期末試験 第16週: Lesson 8 Process I(自動車のパーツと実験用具) § 1 第17週: Lesson 8 Process I(自動車のパーツと実験用具) § 2 第18週: Lesson 9 Process II(能力を表すことばと身体の機能) § 1 第19週: Lesson 9 § 2reading 5(人の身体器官) 第20週: Lesson 10 Process III(順序や前後関係の表し方) § 1 第21週: Lesson 11 Process IV(植物の水のサイクル) § 1 第22週: Lesson 11 § 2reading 6(炭素の循環経路) 第23週: 後期中間試験 第24週: Lesson 12 Quantity(数量を表すことば) § 1 第25週: Lesson 12 Quantity(数量を表すことば) § 2 第26週: Lesson 12 § 2reading(ビタミンのはたらき) 第27週: Lesson 13 Cause and Effect I(動作とその結果) § 1 第28週: Lesson 13 Cause and Effect I(動作とその結果) § 2 第29週: Lesson 14 Cause and Effect II(バルブとそのはたらき) § 1 第30週: Lesson 14 § 2reading 8(サーモスタットの原理) 学年末試験				
教科書	Martin Bates・Tony Dudley-Evans「GENERAL SCIENCE」(南雲堂出版) COCET3300 理工系学生のための必修英単語3300(成美堂)				
参考書					
関連教科	英語総合・基礎英語演習・総合英語演習				
基礎知識	化学・物理・数学など理科系科目の基礎知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験70% 提出物10% 小テスト10% その他10%		
	定期試験	70%	その他は、積極的な授業参加を評価する。居眠り、内職(他教科の勉強)、携帯電話使用などは減点の対象とする。遅刻3回で1時間の欠席にカウントする。		
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	酒井康宏	
授業科目名	英米文学		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	コミュニケーション能力育成という全体目標の中で、人生に潤いと気品を与える英語の韻文や散文を鑑賞することにより、国際社会に通用する人材を育てるために、鑑賞能力と批評能力を育成する。学年最後には人前で暗唱した詩または英文を表現力豊かに発表してもらうことにより、プレゼン能力を育成する。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:E-1 建築PRG:E-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:f 建築PGR:f	
到達目標	全体目標としてのコミュニケーション能力育成の中で、イギリスの代表的韻文並びに散文を鑑賞することによって、また、今日までのアメリカ社会にある様々な人間愛、多様な生き方、文学と社会の関連性、異なる風俗習慣等を理解すると同時に英語力とその表現力の向上を目標とする。				
授業の進め方とアドバイス	授業の進め方としては、前期は毎回学生に分担して英文を和訳してもらう。その際、予習、課題、レポート提出を毎回課すので、ハードな忍耐力を要する。毎時間ごとに、文学作品を映画化した映画等を鑑賞し、その中にみられる時代性や英米文化を考察する。欠席や遅刻常習者、居眠り常習者に対しては、試験を受けさせないで、そのつもりで履修すること。毎週1回放課後オフィスアワーの時間を設ける。				
授業内容とスケジュール	第1週:オリエンテーション 第2週:映像の読み方(1) 第3週:映像の読み方(2) 第4週:シェイクスピア(1) 第5週:シェイクスピア(2) 第6週:スィフト(1) 第7週:スィフト(2) 第8週:ブロンテ姉妹(1) 第9週:ブロンテ姉妹(2) 第10週:バーナード・شو(1) 第11週:バーナード・شو(2) 第12週:コナン・ドイル(1) 第13週:コナン・ドイル(2) 第14週:サマーセット・モーム 第15週:前期のまとめと復習 前期期末試験(筆記試験) 第16週:アメリカ文学・文化史概説 第17週:ジョン・スタインベック(1) 第18週:ジョン・スタインベック(2) 第19週:マーガレット・ミッチェル(1) 第20週:マーガレット・ミッチェル(2) 第21週:ヘミングウェイ(1) 第22週:ヘミングウェイ(2) 第23週:マーク・トウェイン(1) 第24週:マーク・トウェイン(2) 第25週:ホーソン(1) 第26週:ホーソン(2) 第27週:フェニモア・クーパー(1) 第28週:フェニモア・クーパー(2) 第29週:朗読・暗誦試験に向けて(1):感動表現の指導 第30週:朗読・暗誦試験に向けて(2):内容や芸術性を重視した指導 学年末試験(英詩や英文の暗誦試験)				
教科書	『映画化された英米文学24:そのさわりを読む』(鶴見書店)				
参考書	『聖書』/『ギリシヤ・ローマ神話』(岩波書店)/『オンリー・イエスタディ』(筑摩書房)				
関連教科	英語総合・基礎英語演習・国語科・社会科・芸術全般				
基礎知識	聖書・シェイクスピアの作品・ギリシヤ・ローマ神話				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験45%、レポート45%、その他(10%)は出席点で、全出席時間数より欠席時間数の割合を算出する。前期期末試験、学年末試験(暗唱朗読試験)、レポート、すべてを考慮して評価する。		
	定期試験	45%			
	レポート	45%			
	演習・小テスト	0%			
	その他	10%			
備考	感性を評価する項目も定期試験に加えるので、そのつもりで受講すること。				

対象学科	全学科		担当教員	H29 開講なし	
授業科目名	英語会話		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成29年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科 基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	青砥正彦	
授業科目名	英語演習		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	演習	単位種別	履修
授業概要	CALL教室においてPCを利用しTOEIC対応学習ソフトで、前半はTOEIC模擬問題で演習、後半はアルクネットアカデミーを利用したTOEIC演習				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標	TOEICスコア500～600点を目標とし、リスニング力、リーディング力、語彙力の向上を図り、年1回以上のTOEIC受験を義務付ける。				
授業の進め方とアドバイス	設問ごとに解答・解説を行う。また設問・解答・解説データは各端末に配信するので、USBメモリーを毎回持参すること。				
授業内容とスケジュール	第1週：ガイダンス 第2週：TOEIC演習 第3週：TOEIC演習 第4週：TOEIC演習 第5週：TOEIC演習 第6週：TOEIC演習 第7週：TOEIC演習 第8週：TOEIC演習 第9週：前期中間試験 第10週：TOEIC演習 第11週：TOEIC演習 第12週：TOEIC演習 第13週：TOEIC演習 第14週：TOEIC演習 第15週：TOEIC演習 前期期末試験 第16週：TOEIC演習 第17週：TOEIC演習 第18週：TOEIC演習 第19週：TOEIC演習 第20週：TOEIC演習 第21週：TOEIC演習 第22週：TOEIC演習 第23週：後期中間試験 第24週：TOEIC演習 第25週：TOEIC演習 第26週：TOEIC演習 第27週：TOEIC演習 第28週：TOEIC演習 第29週：TOEIC演習 第30週：TOEIC演習 学年末試験				
教科書					
参考書					
関連教科基礎知識	1～3年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話、4年次の英語総合演習				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	H29 開講なし	
授業科目名	時事英語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成29年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科 基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	H29 開講なし	
授業科目名	コミュニケーション		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成29年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG : E-1 建築PRG : E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG : f 建築PRG : f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科 基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	H29 開講なし	
授業科目名	独語講読		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成29年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科 基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 叶玉紅	
授業科目名	中国語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	<p>この授業で皆さんが身につけようとするのは、中国語の共通語(普通話)といわれてきているものです。本授業は、発音編、基本編、応用編、の3つの部分で成り立っています。週1回の授業でも一年間で無理なく終えることができるように構成しました。</p> <p>発音編は、発音だけの学習ではなく、単語や会話、コラムの中で発音とその表記法が自然と身につくように構成されています。</p> <p>基本編は、「あいさつ」や「月日・曜日・時間の表現」「数字の読み方」など、基本的な会話や言い方を取り上げ、中国語の構成と表現が理解できるようになっています。</p> <p>応用編では、中国の学校、普通の生活の中でさまざまな場面に会います。そこで、現地の人との会話を通じ、中国語を学びます。</p> <p>(1) 学生のレベルに合わせ、中国語の発音に親しむ。 (2) 正しい発音を身につけてから、中国語での挨拶、曜日の言い方、数字の読み方などを勉強し、表現できるようにします。 (3) 実際、中国に留学し、生活の中で出会うさまざまな場面を出し、その時に使う中国語を学びます。この勉強を通して、学生に中国語に関心を待たせ、中国へ留学に行きたいという意欲をおこさせます。</p>				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-2)	関連するJABEE	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)		
到達目標	中国語の発音に親しみ、簡単な挨拶、及び曜日、数字などを表現できる。				
授業の進め方とアドバイス	<p>予習一次の授業で学習するところを読めるようにしておく 授業中一教科書の文を理解し、読めるようにする 復習一毎回、前回の学習内容を復習し、小テストを行う 普段の挨拶を中国語で行うことができるようになること</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週:オリエンテーション 中国語の方言 普通話の話 第2週:中国語の発音 第3週:子音の発音 第4週:発音編まとめ テスト1 第5週:中国語での簡単な挨拶 第6週:中国の「肯定文」テスト2 第7週:中国語の「否定文」テスト3 第8週:中国語の「疑問文」テスト4 第9週:家族の紹介 第10週:中国語の形容詞 テスト5 第11週:中国語の数字の言い方 テスト6 第12週:中国語の量詞 テスト7 第13週:時間の言い方 第14週:日付の言い方 第15週:前期のまとめ 前期期末試験 第16週:中国料理の食べ方 第17週:中国の乗物の言い方・乗り方 テスト1 第18週:中国の公共施設の言い方 第19週:中国の映画を鑑賞 第20週:映画鑑賞の感想を発表 テスト2 第21週:対になった形容詞 第22週:動作の表し方 テスト3 第23週:中国語の歌 第24週:お金の換算・食堂で注文する言葉 第25週:買い物の言い方・お金の勘定の言葉 テスト4 第26週:中国の地名・名所旧跡 第27週:中国と日本の友好文化交流の活動の紹介 第28週:中国語での手紙の書き方 テスト5 第29週:中国旅行での言葉 第30週:後期のまとめ 学年末試験</p>				
教科書	「ニイハオ!中国語」(金星堂出版)				
参考書	『中国語ジャーナル』(アルク出版) 『漢詩への誘い』(NHKシリーズ社出版) 『中国語で歌おう』(アルク社出版)				
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		100%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 権 文香	
授業科目名	韓国語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	韓国語の学習として『だんだん韓国語』を教材にし、韓国語に対してより一層深い理解が得られるように指導する。また、語彙力を伸ばし、教科書だけでなく韓国の文化、ニュース等に取り上げられたことについても話していく。				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-2)		関連するJABEE学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国文字であるハングルの読み書きができる。 ・簡単な一般会話ができる。 ・ビデオなどを鑑賞し、自信の目で韓国を理解できる。 				
授業の進め方とアドバイス	日本ではキムチと焼き肉に代表される韓国が韓流ブームという言葉も流行り、はや10年以上が過ぎ、いまや韓国語への関心も定着しつつあるように思われる。ハングルの授業をもとに若者も隣国に関心を持ち、同様にひとつの文化として理解してもらいたいと考えます。				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 授業のガイダンス</p> <p>第2週: 第1課 基本母音字母の理解 書き方と読み方。日常挨拶 1</p> <p>第3週: 第2課 基本母音字母と合成母音字母 聞き取り練習</p> <p>第4週: 第3課 子音説明および子音と母音の組み合わせ。日常挨拶 2</p> <p>第5週: 第4課 子音と母音の組み合わせからなる文字の発音方法</p> <p>第6週: 第5課 子音からなる激音、濃音の理解 発音方法。日常挨拶 3</p> <p>第7週: 第6課 子音からなる激音、濃音の単語と発音方法</p> <p>第8週: 第7課 パッチムの理解。パッチムがついた文字の理解</p> <p>第9週: 第8課 パッチムのついた単語と読み方 日常挨拶 4</p> <p>第10週: 第9課 自己紹介 職業表現の練習 助詞の使い方</p> <p>第11週: 第10課 身体 名称 練習問題 単語の読み方 意味</p> <p>第12週: 第11課 指示語 この その あの のを使った文章作り</p> <p>第13週: 第12課 練習問題 単語の読み方 意味</p> <p>第14週: 第13課から14課までの復習まとめ</p> <p>第15週: 前期総復習 期末試験対策</p> <p>前期期末試験</p> <p>第16週: 前期の総復習</p> <p>第17週: 第15課 物、場所についての所在を尋ねる表現会話</p> <p>第18週: 第16課 所在表現を用いた会話および丁寧形、尊敬表現</p> <p>第19週: 第17課 食事においての要望、感想を述べる表現</p> <p>第20週: 第18課 練習問題および韓国の食事マナー</p> <p>第21週: 韓国映画鑑賞</p> <p>第22週: 第19課 数字の理解 漢字語数字を使つての会話</p> <p>第23週: 第20課 現在進行形表現 ～している、の会話表現 練習問題</p> <p>第24週: 第21課 否定表現の作り方 数詞を使ってショッピング会話</p> <p>第25週: 第22課 季節表現の理解 練習問題 単語の読み方、意味</p> <p>第26週: 第23課 予定を尋ねるときの表現 固有名詞の理解</p> <p>第27週: 第24課 漢数詞と固有名詞の使い方 練習問題</p> <p>第28週: 第25課 過去形の作り方 時間を表す表現 家族の名称</p> <p>第29週: 第26課 練習問題 誕生日の歌練習</p> <p>第30週: 総復習 期末試験対策</p> <p>後期期末試験</p>				
教科書	『だんだん韓国語』(朝日出版社)				
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		試験90%(筆記60% リスニング30%) 宿題提出10%		
	定期試験	90%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	10%			
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	倉田久靖	
授業科目名	解析Ⅲ(自由選択)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	ベクトル空間について学習する				
関連する本校の学習教育目標	A-1		関連するJABEE	C	
到達目標	ベクトル空間について理解できる 基本的なベクトル空間について理解し、計算ができる				
授業の進め方とアドバイス	<p>本科目は学修単位であるので、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 参考文献により学習する。 事前に配布するプリントの問題を解く。 授業時に提示する問題を解く。 なお、質問は随時受け付ける。また、担当教員以外に質問しても良い。</p>				
授業内容とスケジュール	第1週 ガイダンス、数ベクトル空間 第2週 線形独立 第3週 基底 第4週 基底の変換 第5週 内積と正規直交基底 第6週 線形変換 第7週 固有値と固有ベクトル 第8週 ※前期中間試験 第9週 線形写像 第10週 部分空間の定義 第11週 部分空間の基底と次元 第12週 線形写像と部分空間 第13週 直交補空間 第14週 一般のベクトル空間 第15週 複素数ベクトル空間 ※前期末試験				
教科書					
参考書	大学・高専生のための 解法演習 微分積分Ⅱ(森北出版)、大学編入のための数学問題集(大日本図書)				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	3年生までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合		成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート				
	演習・小テスト	30%			
	その他				
			100%		
備考	追認試験は実施しない。				

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 笹間政典	
授業科目名	日本語教育II		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	日本語がある程度できる留学生を対象に、科学技術的な文章の読解を通して、技術文の読み書きができるようになることを目指す。技術用語は訳語を示すことにより説明時間の短縮を図るが、授業自体は直接法で行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	1) 技術文の読解ができるようになること。 2) 卒業論文が日本語で書けるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	いろいろな分野の技術文の読解を行い、技術文の文体になれる。また学生の専門分野に関連したレポートを日本語で書かせ、添削指導を行うことによって作文能力の向上を図る。授業は技術用語の訳語(英語)を示す以外は、すべて日本語で説明する。 なお、本科目は学修単位であるため、60時間以上の時間をかけてレポートを作成すること。				
授業内容とスケジュール	第1週 技術文の書き方 第2週 技術文の書き方 宿題レポート(1) 第3週 技術文読解 第4週 技術文読解 レポート(1) 添削 第5週 技術文読解 宿題レポート(2) 第6週 技術文読解 第7週 技術文読解 レポート(2) 添削 第8週 技術文読解 宿題レポート(3) 第9週 中間試験 第10週 技術文読解 第11週 技術文読解 レポート(3) 添削 第12週 技術文読解 宿題レポート(4) 第13週 技術文読解 第14週 技術文読解 レポート(4) 添削 第15週 技術文読解 前期期末試験				
教科書	毎回プリントを配布				
参考書					
関連教科	社会科学、人文社会				
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		理解度、レポートの提出率、日本文の正確さなどを総合的に判断する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
			100%		
備考					

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 笹間政典	
授業科目名	日本語教育Ⅲ		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	日本語がある程度できる留学生を対象に、科学技術的な文章の読解を通して、技術文の読み書きができるようになることを目指す。技術用語は訳語を示すことにより説明時間の短縮を図るが、授業自体は直接法で行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)		
到達目標	1) 技術文の読解ができるようになること。 2) 卒業論文が日本語で書けるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	いろいろな分野の技術文の読解を行い、技術文の文体になれる。また学生の専門分野に関連したレポートを日本語で書かせ、添削指導を行うことによって作文能力の向上を図る。授業は技術用語の訳語(英語)を示す以外は、すべて日本語で説明する。 なお、本科目は学修単位であるので60時間以上の時間をかけてレポートを作成すること。				
授業内容とスケジュール	第1週 ビジネス文書の書き方 第2週 ビジネス文書の書き方 宿題レポート(1) 第3週 技術文読解 第4週 技術文読解 レポート(1) 添削 第5週 技術文読解 宿題レポート(2) 第6週 技術文読解 第7週 技術文読解 レポート(2) 添削 第8週 技術文読解 宿題レポート(3) 第9週 中間試験 第10週 技術文読解 第11週 技術文読解 レポート(3) 添削 第12週 技術文読解 宿題レポート(4) 第13週 技術文読解 第14週 技術文読解 レポート(4) 添削 第15週 技術文読解 学年末試験				
教科書	毎回プリントを配布				
参考書					
関連教科	社会科学、人文社会				
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		理解度、レポートの提出率、日本文の正確さなどを総合的に判断する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
			100%		
備考					